

ヒヤリ・ハット調査
「シニア世代に多い事故」
(シニア世代のヒヤリ・ハット/詳細調査①)

平成24年2月

東京都生活文化局消費生活部

目 次

1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査内容	1
(5) 回答者の属性	1
3. 調査結果（ヒヤリ・ハットや危害経験）	2
(1) 全体的な傾向	2
(2) 台所	5
(3) 浴室・洗面所・トイレ	10
(4) 居間	14
(5) 寝室	18
(6) 屋外・ベランダ	20
(7) その他（階段・段差等）	23
4. 調査結果（長期間使用している製品）	27
5. まとめ	29
6. 結果の活用	29

1. 調査目的

日常生活で経験した「ヒヤリ・ハット」体験はどこへも情報提供されることなく多数埋もれていることから、都では、危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ・ハット調査を実施している。

今回は、シニア世代に多い事故を明らかにするため、20～59歳と60歳以上の都民に身の回りで起こったヒヤリ・ハットや危害の体験を聞き、その内容を比較した。

2. 調査概要

(1) 調査対象

東京都に居住する20歳以上の男女3,000人（インターネットアンケート登録モニター）

(2) 調査期間

平成23年8月5日～11日

(3) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

(4) 調査内容

本調査では、台所、浴室、居間、寝室、屋外、その他の場所に分け、日常生活で使用する具体的な製品名をあげて、過去5年以内のヒヤリ・ハットや危害経験の有無を聞いた。次に、ヒヤリ・ハットや危害の経験が「ある」と回答したのものについて、危害の程度とその時の状況について選択式の設問で聞き、さらに、全体のヒヤリ・ハットや危害経験の中からひとつを選んで具体的な内容を記述式の設問で詳しく聞いた。

また、自宅で使用している電気製品、ガス製品、家具等について、その使用年数を聞いた。

(5) 回答者の属性

回答者は、20～59歳の回答者を1,500人、60歳以上の回答者を1,500人とした。

なお、70歳以上は、インターネットアンケート登録モニターが少ないため、同居している家族による代理回答を併用した。

	男女計 (人)	内、 代理回答	男性 (人)	内、 代理回答	女性 (人)	内、 代理回答
合計(人)	3,000	224	1,568	66	1,432	158
20～59歳	1,500	0	760	0	740	0
60歳以上	1,500	224	808	66	692	158
20歳代(人)	375	0	203	0	172	0
30歳代(人)	375	0	187	0	188	0
40歳代(人)	375	0	183	0	192	0
50歳代(人)	375	0	187	0	188	0
60歳代(人)	750	0	375	0	375	0
70歳以上(人)	750	224	433	66	317	158

ヒヤリ・ハット ケガはしなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例
危害 ケガをした事例や発火・発煙・引火等重大な事故につながるおそれのある事例
「ケガ」には、やけどやかぶれ、呼吸困難、具合が悪くなった等も含まれる。

3. 調査結果（ヒヤリ・ハットや危害経験）

(1) 全体的な傾向

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図1は、アンケートの回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験が多かったもの(180人以上)について、20～59歳の回答者と60歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が特に多かったものは、「靴・履物」、「包丁」、「自転車」であり、20～59歳の回答者と比較して、60歳以上の回答者のほうが特に多かったものは、「段差（家の中）」、「スリッパ」、「脚立・踏み台」だった。

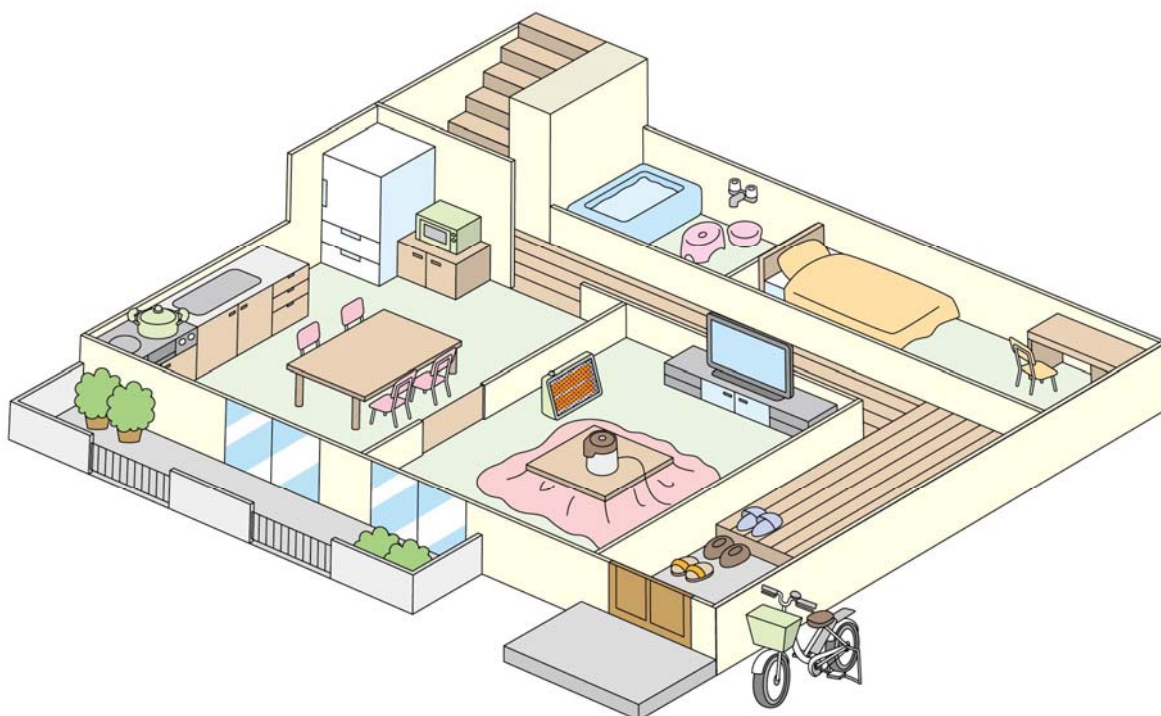
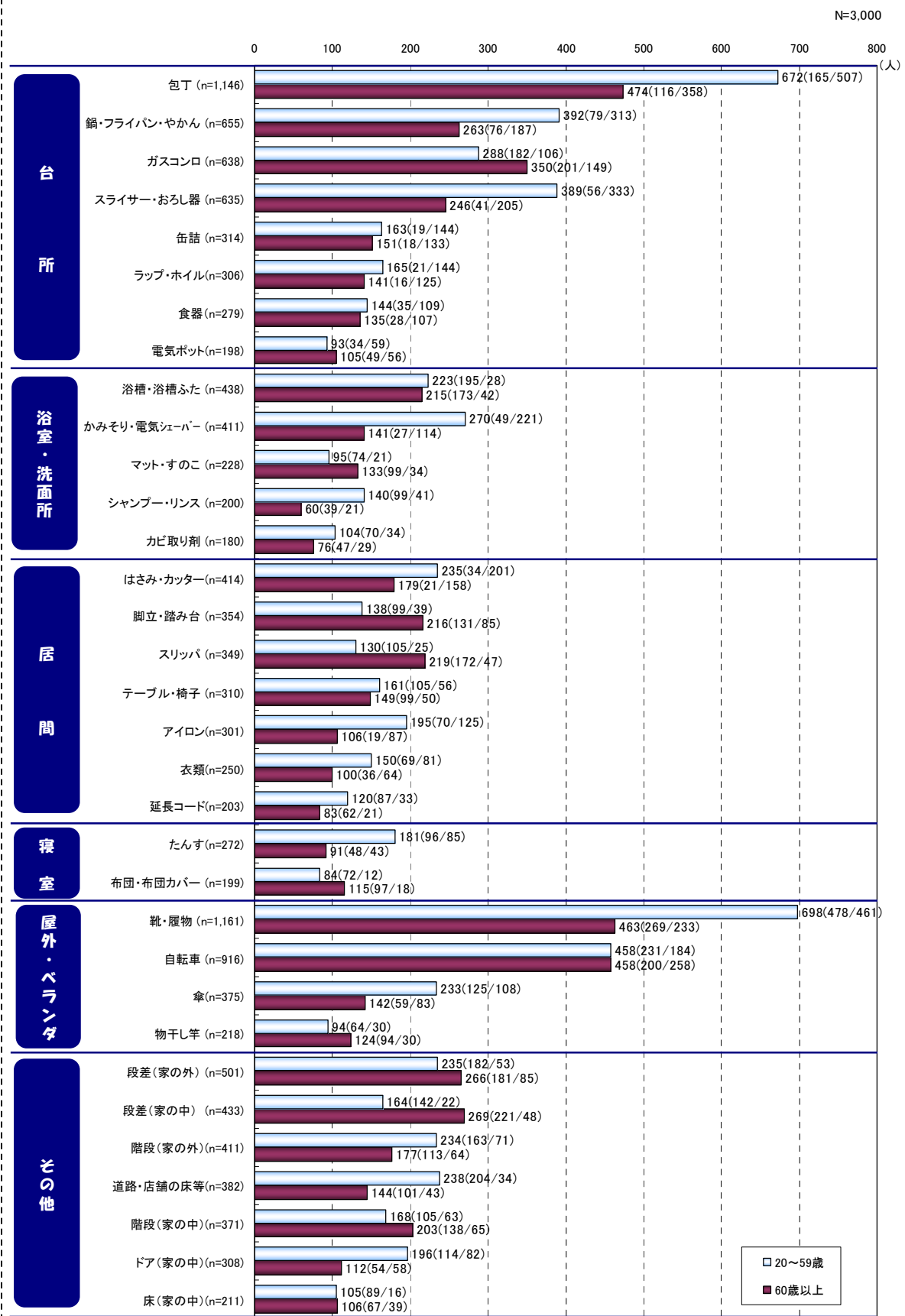


図1 ヒヤリ・ハットや危害経験



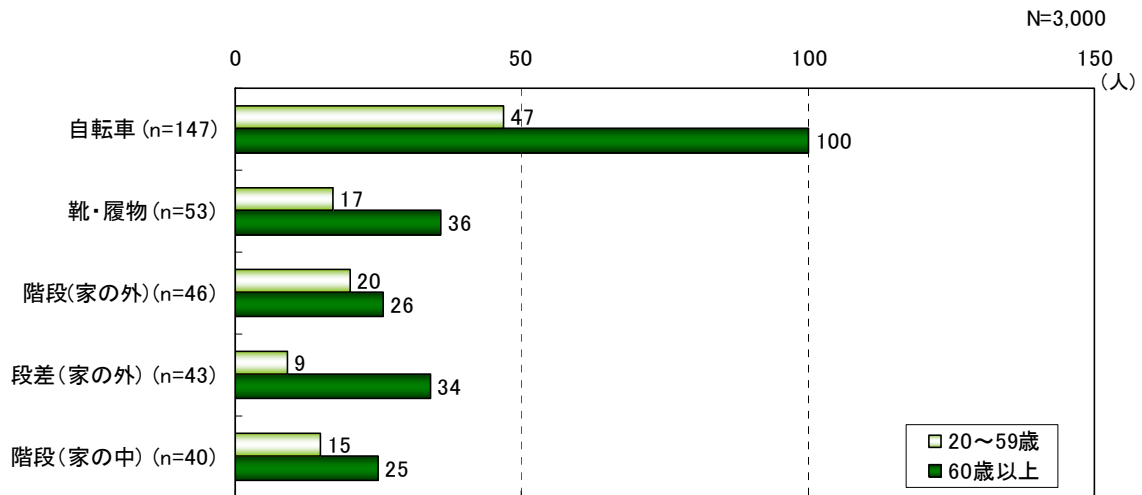
※本報告書における注意事項

- ・グラフ上の「N=〇」(〇は数字)は、アンケート対象者の数を示す。
- ・グラフ上の「n=〇」(〇は数字)は、アンケート対象者のうち、ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答した人の数を示す。
- ・グラフ上の「(〇/〇)」(〇は数字)は、(ヒヤリ・ハット経験者の数/危害経験者の数)を示す。

イ 医療機関の受診状況

図2は、アンケートの回答者全体で医療機関の受診が多かったもの(上位5製品)について、20～59歳の回答者と60歳以上の回答者の医療機関受診者の数を比較したものである。「自転車」、「靴・履物」、「階段(家の外)」は、ヒヤリ・ハットや危害経験者の数で比較すると、20～59歳の回答者のほうが多いかあるいは同程度であるが(図1参照)、医療機関受診の有無で比較すると60歳以上の回答者のほうが多くなっている(図2参照)。このことから、高齢になると、ケガが重症化しやすいことがわかる。

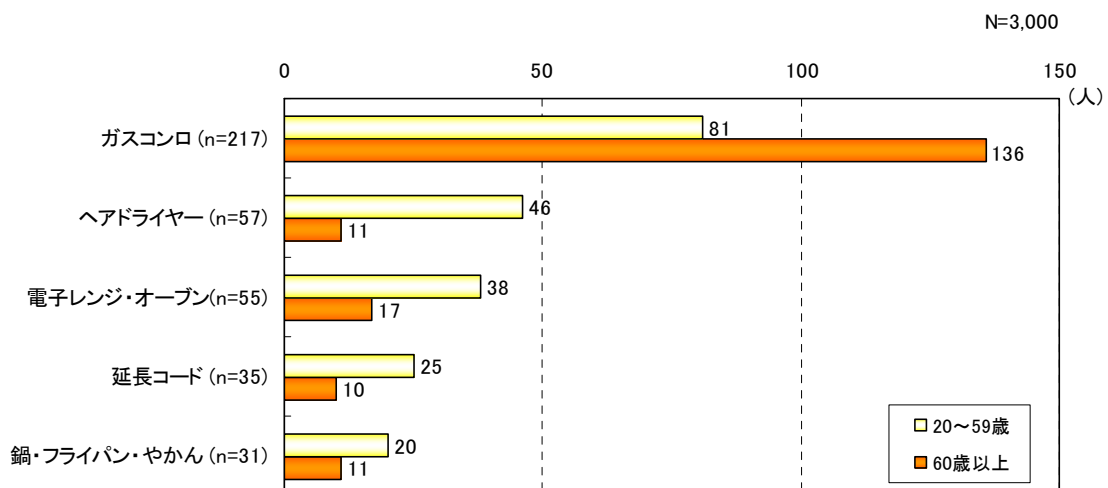
図2 医療機関の受診状況



ウ 発火・発煙・引火

図3は、アンケートの回答者全体で「発火・発煙・引火した」と回答した人が多かったもの(上位5製品)について、20～59歳の回答者と60歳以上の回答者の発火・発煙・引火の経験者数を比較したものである。「ガスコンロ」は、60歳以上の回答者のほうが、発火・発煙・引火の経験者が多くなっているものの、それ以外では20～59歳の回答者のほうが多くなっている。

図3 発火・発煙・引火



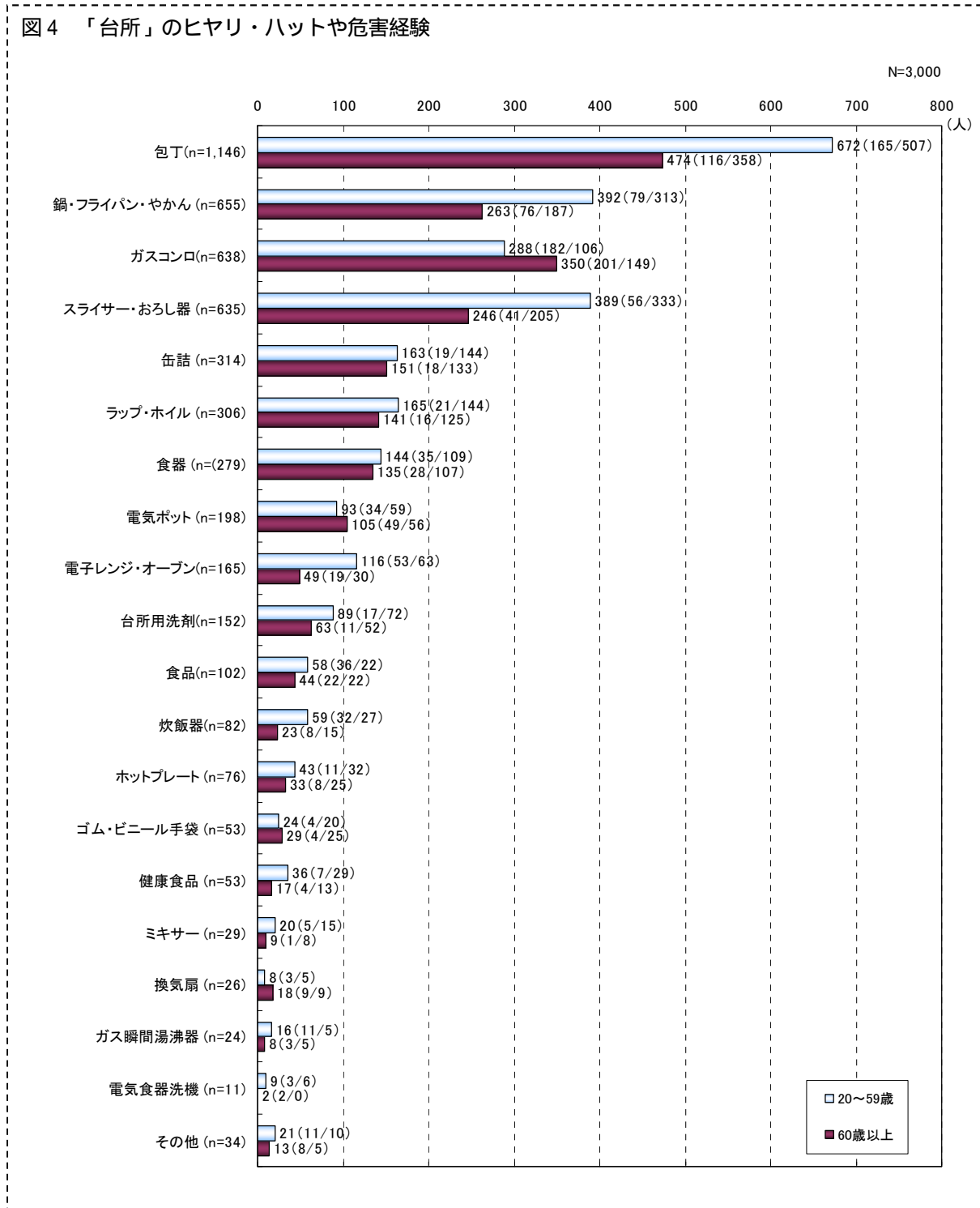
(2) 台所

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図4は、主に「台所」で使用する製品について、20～59歳の回答者と60歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったものは、「包丁」、「鍋・フライパン・やかん」、「ガスコンロ」であり、20～59歳の回答者と比較して60歳以上の回答者のほうが多かったものは、「ガスコンロ」、「電気ポット」、「ゴム・ビニール手袋」、「換気扇」だった。

「その他」としては、「冷蔵庫」、「食器棚」等があった。

図4 「台所」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況及び具体的な内容

図 5～図 12 は、主に「台所」で使用する製品でヒヤリ・ハットや危害経験者の数が多かったもの(180 人以上)について、その時の状況を 20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者と比較したものである。また、表 1 は「台所」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況のうち、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが特に多かった事例は、「ガスコンロの火を消し忘れた」だった。ガスコンロの消し忘れについては、具体的な記述内容から、視力の衰えから炎が見えにくくなって火が消えたと勘違いしてしまうことも原因のひとつと考えられる。事故を防ぐためには、ガスコンロは安全装置付きのものを使用すべきである。

また、缶詰を開けるときのケガは、具体的な記述内容から缶切り不要のイージーオープン缶が多いと思われ、指の力が衰えていることも原因のひとつと考えられる。缶詰を開ける時は、容器本体を持つ手の指が缶のふたの上にかかっていないことを確認し、親指を缶のふたにあて、人差し指でリングを上の方に引き上げるようにして開けるようにするとよい。また、ケガをしにくい構造のダブルセーフティ缶を選ぶという方法もある。

図 5 「包丁」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

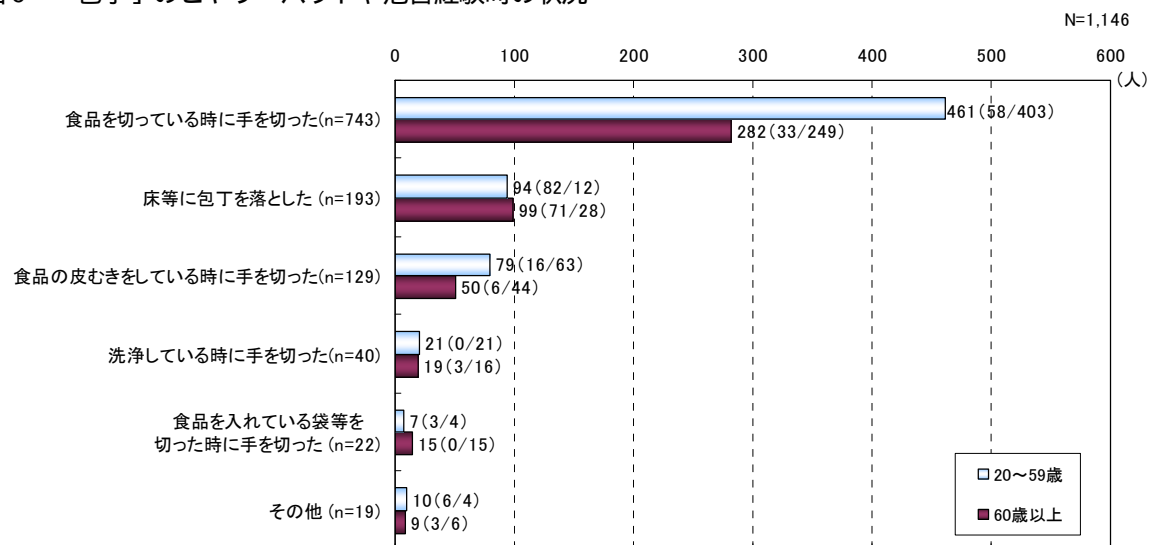


図 6 「鍋・フライパン・やかん」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

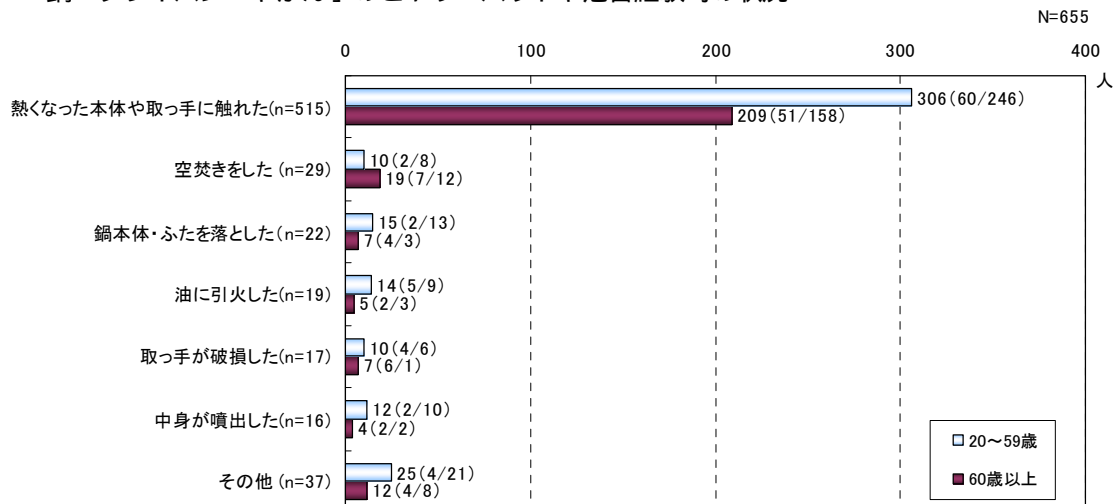


図7 「ガスコンロ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

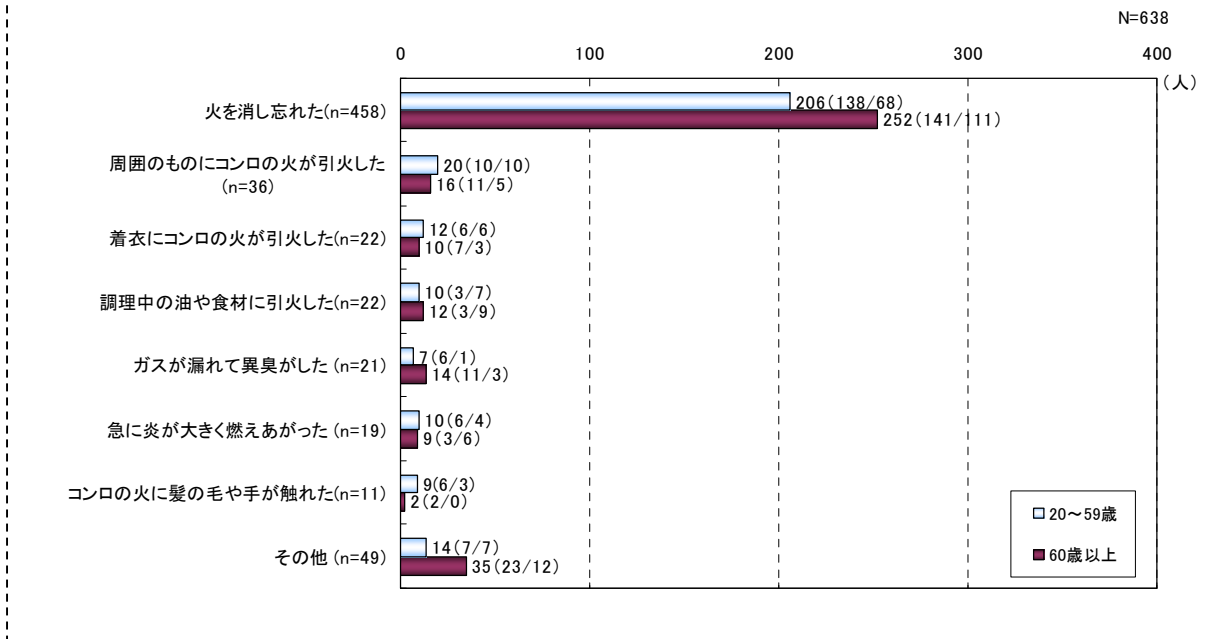


図8 「スライサー・おろし器」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

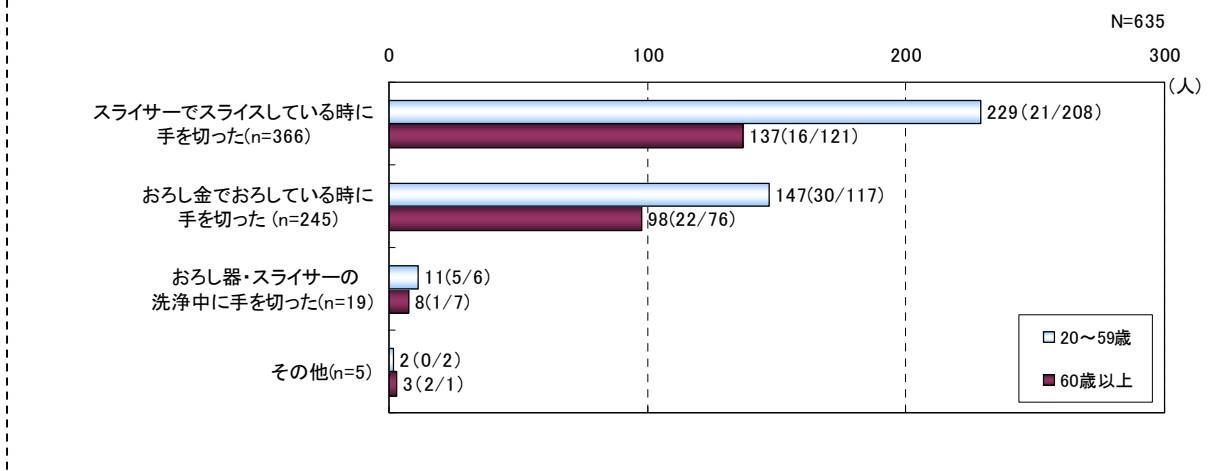


図9 「缶詰」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

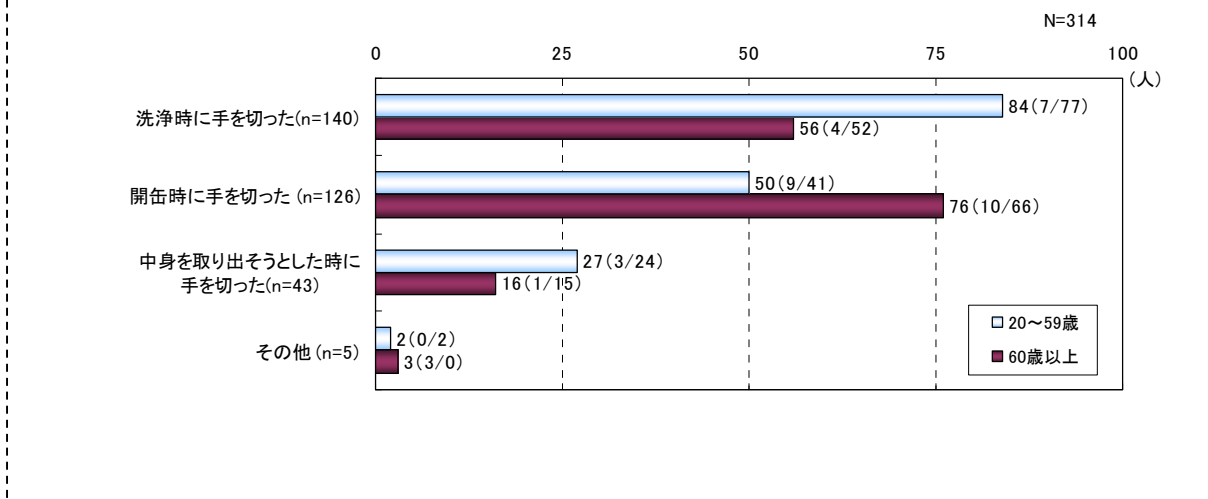


図10 「ラップ・ホイル」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

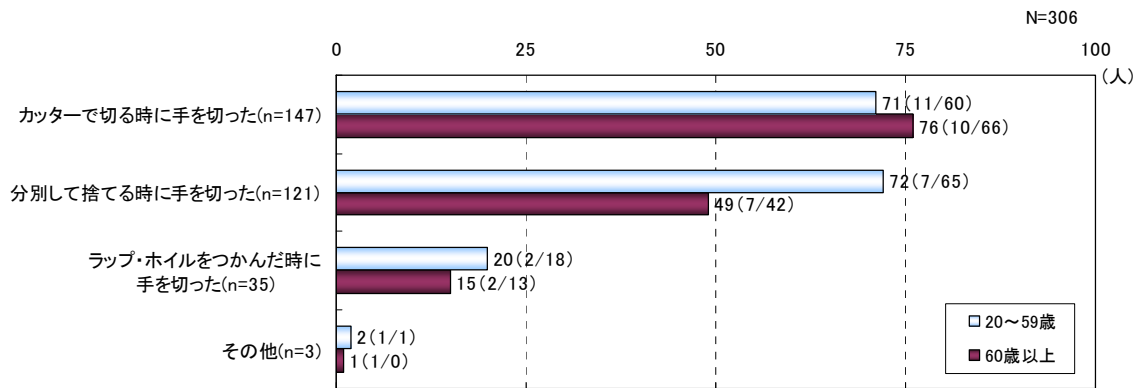


図11 「食器」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

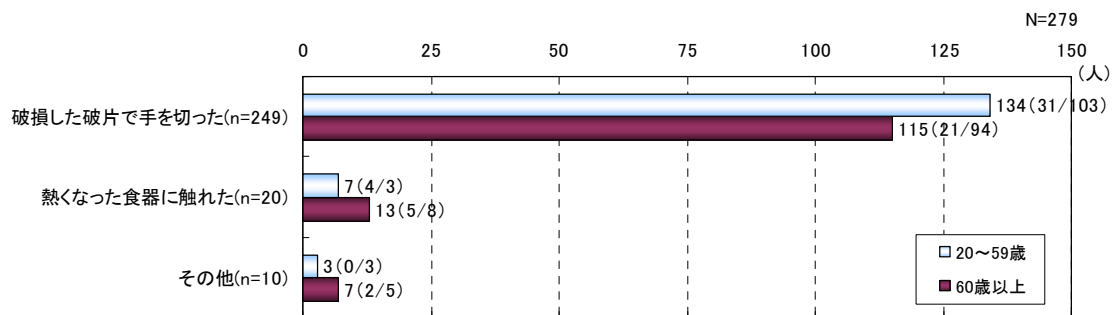


図12 「電気ポット」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

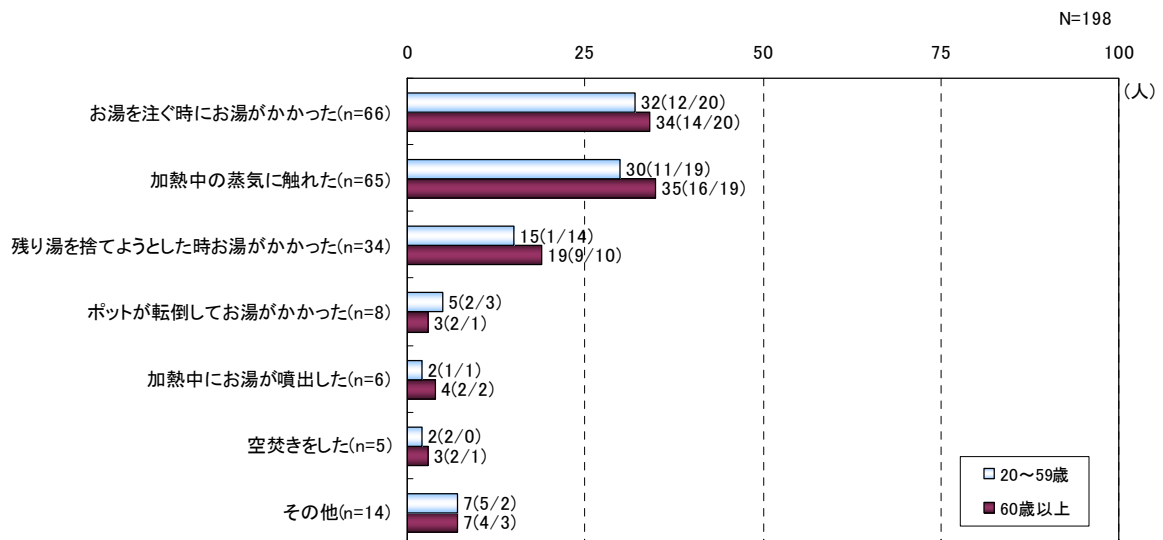


表1 「台所」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者	
1	包丁	台所でにんじんを切っていた時、包丁が落下し、右足に包丁の先端が刺さった。いつものように握っていたつもりだが、包丁に握力が伝わらない瞬間があったようだ。幸い厚手のソックスとスリッパを履いていたので、包丁は刺さったままだったが、足の甲には数ミリしか刺さっていなかったため、アルコール消毒と救急絆創膏で処置した。	60代 男性
2		包丁を台所流し台の扉にしまおうとして落とし、足の指を切ってしまった。	60代 女性
3	鍋	寝る前に睡眠薬を飲んだのに、みそ汁を温め直すのを忘れていて温めているうちに寝てしまった。家族が気付いて消してくれた。	80代 女性
4	ガス コンロ	ガスコンロを一番小さい火にすると、上から見る炎がよく見えず消えていると勘違いしてしまった。しかし、自動で消える機能があるので大事には至らなかった。	70代 女性
5		ガスコンロを弱火で使っていて、消し忘れた。日が当たっていて炎が見えなかった。数時間後、あたりが薄暗くなって消し忘れに気付いた。	60代 女性
6	缶詰	ブルトップが固くて、勢いよく引っ張った時に、缶詰の縁で手を切った。	60代 女性
7		缶詰のふたを引っ張ったとき、親指と人差し指の中間を切った。	70代 男性
8	電気 ポット	電気ポットから湯気が出ていたが、スイッチが近くにあるので操作していたら手が触れていた。アチッチ！となり手が赤くなってしまった。	60代 男性
9		ポットの残り湯をキッチンシンクに捨てようとしたところ、手が滑ってポットをシンクに落とし、やけどを負ってしまった。	70代 女性

《参考：缶詰の開け方》

ケガをしやすい開け方①



リングを引き上げる手の親指でふたを押さえていない。
→急にふたが開き手を切りやすい。

ケガをしやすい開け方②



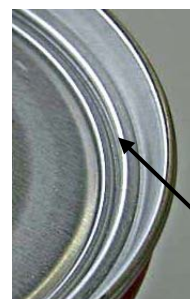
缶を持つ側の手の指がふたの上にかかっている。
→持ち上げたふたで手を切りやすい。

ケガをしにくい開け方



- ① 容器本体を持つ手の指が缶のふたの上にかかっていないことを確認する。
- ② 親指を缶のふたにあて人差し指でリングを上方に引き上げるように開ける。

ケガをしにくい構造の缶



(見分け方)
切り込み溝が盛り
上がっている

ダブルセーフティ缶
缶開口部・ふたとも切り口が手が接触しにくいよう内側に折り曲げられている

出典：商品テスト「缶詰容器の安全性について」(平成20年5月 東京都生活文化局)

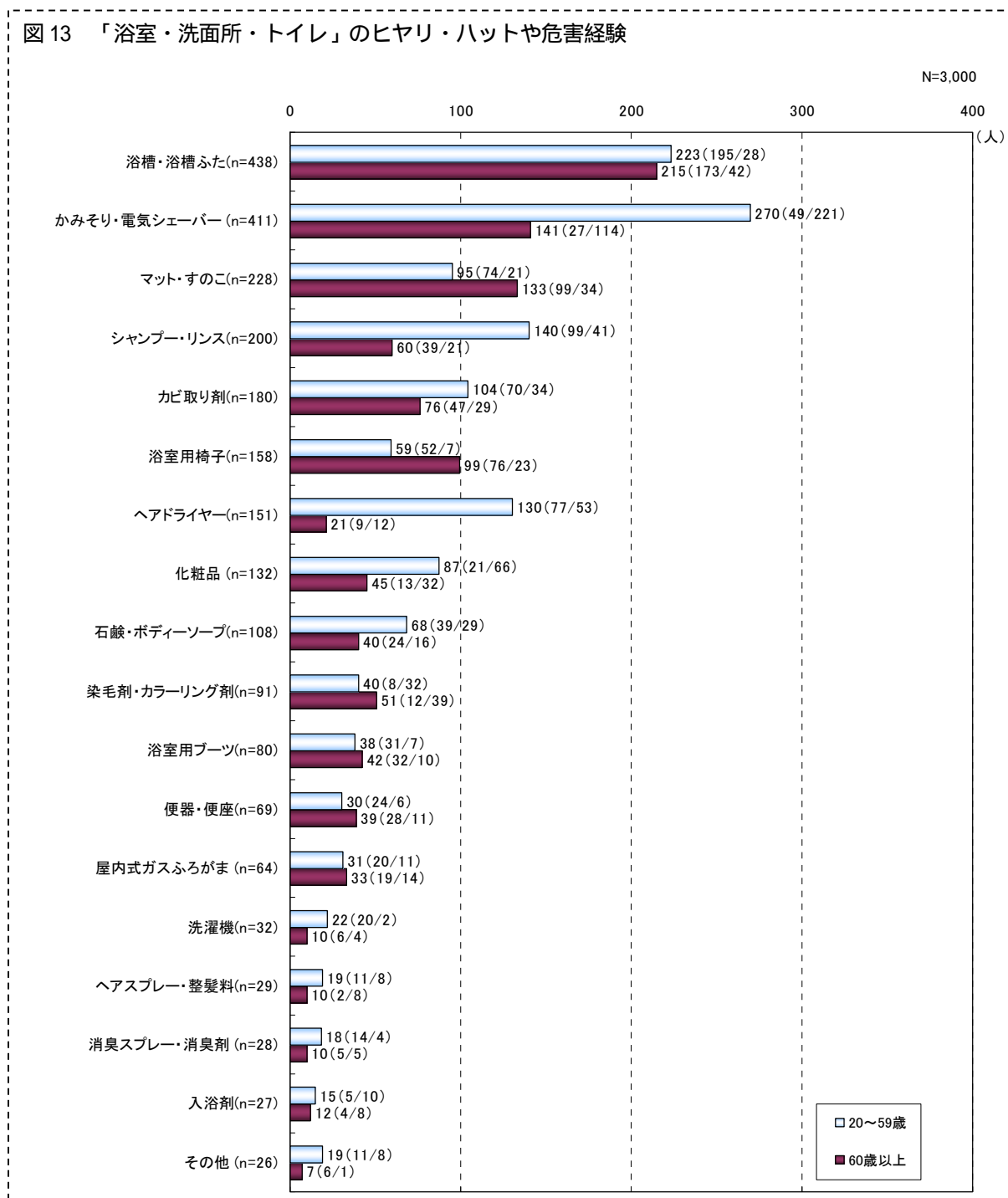
(3) 浴室・洗面所・トイレ

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図13は、主に「浴室・洗面所・トイレ」で使用する製品について、20～59歳の回答者と60歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったものは、「浴槽・浴槽ふた」、「かみそり・電気シェーバー」、「マット・すのこ」であり、20～59歳の回答者と比較して60歳以上の回答者のほうが多かったものは、「マット・すのこ」、「浴室用椅子」、「染毛剤・カラーリング剤」、「浴室用ブーツ」、「便器・便座」、「屋内式ガスふろがま」だった。

「その他」としては、「浴室の床」、「シャワーノズル」等があった。

図13 「浴室・洗面所・トイレ」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況及び具体的な内容

図 14～図 18 は、主に「浴室・洗面所・トイレ」で使用する製品でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったもの(180 人以上)について、その時の状況を 20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者と比較したものである。また、表 2 は、「浴室・洗面所・トイレ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況のうち、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが特に多かった事例は、「水・石鹸等で濡れていて、マット・すのこが滑った」だった。浴室は、足元が濡れていてさらに姿勢を変えることが多いので、バランスを崩す危険性が高い。手すりを設置し、滑りやすい石鹸等の泡をしっかりと流すようにしなければならない。

図 14 「浴槽・浴槽ふた」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

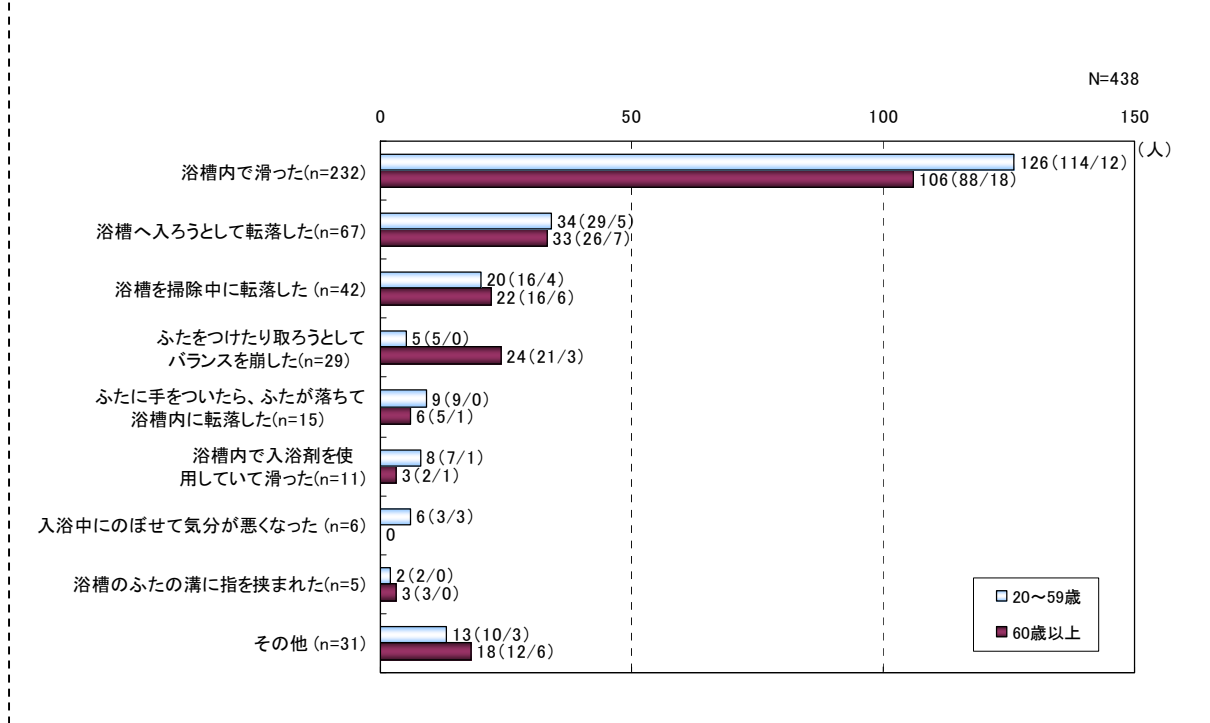


図 15 「かみそり・電気シェーバー」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

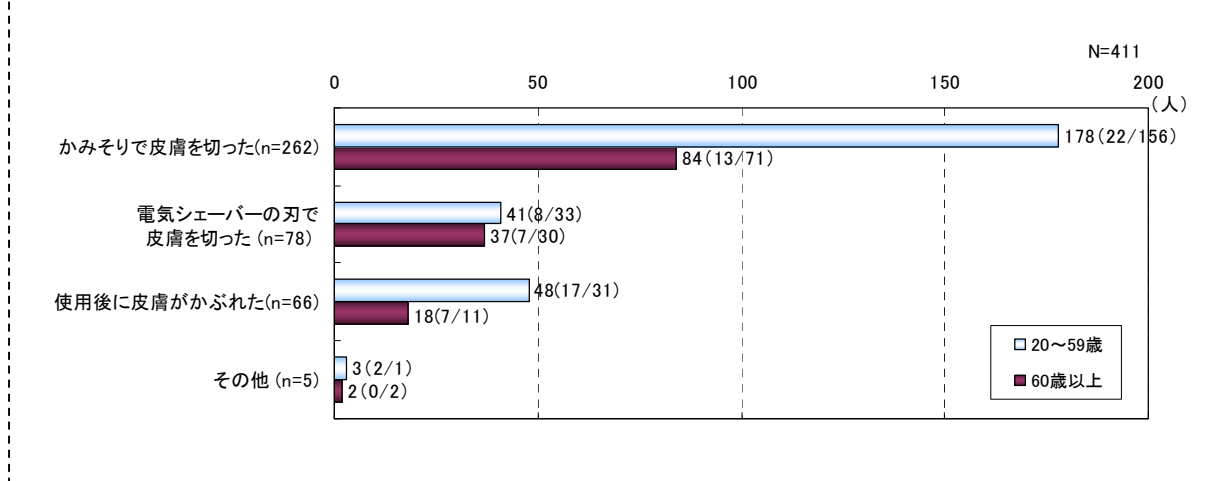


図 16 「マット・すのこ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

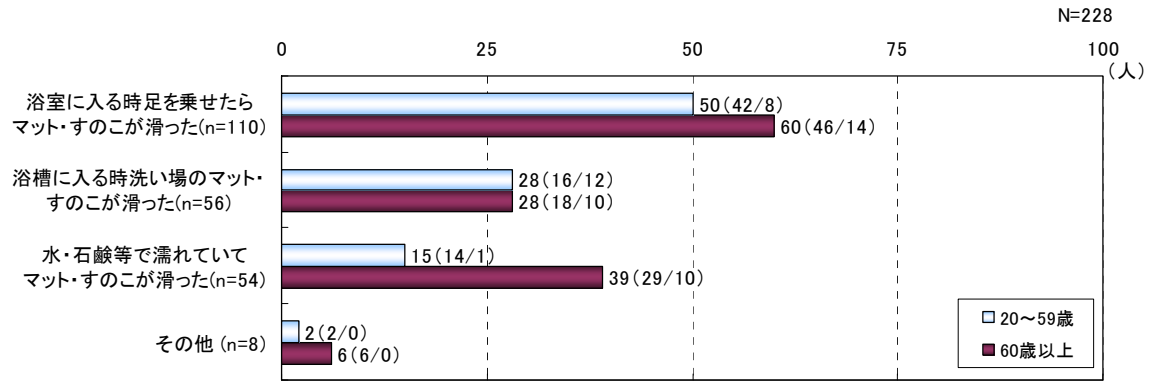


図 17 「シャンプー・リンス」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

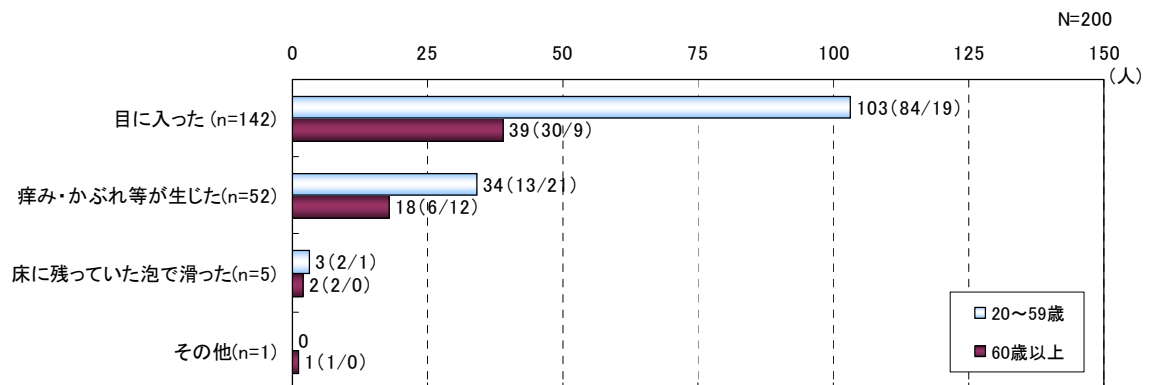


図 18 「カビ取り剤」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

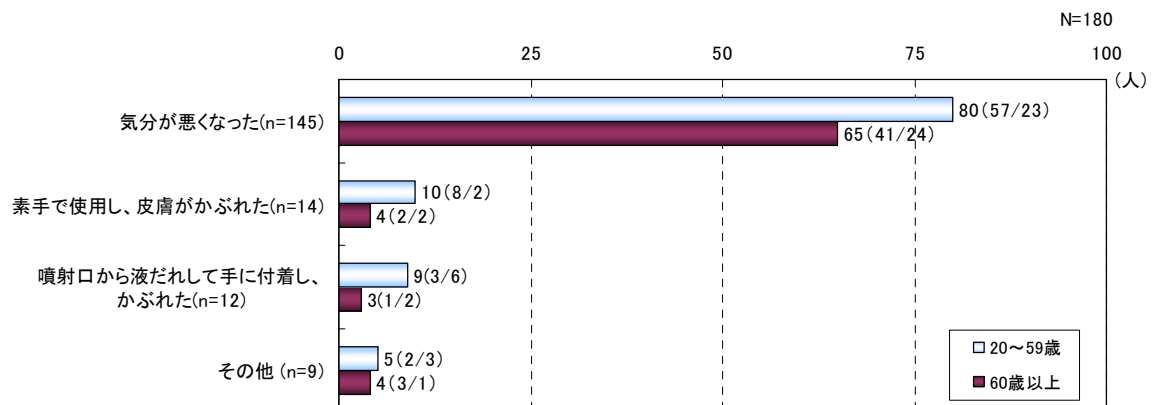


表2 「浴室・洗面所・トイレ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者
1	深めの浴槽の下の方ををスポンジで掃除している時に、バランスを崩して頭から浴槽の中に落ちそうになった。	60代女性
2	風呂のふた3枚が風呂の手すりに立てかけてあった。風呂に入り、ふた3枚を持って風呂から出ようとしたところ、すねを浴槽にぶつけ、ひどく内出血した。	70代男性
3	浴槽を掃除しようとしてふたに手をかけたらふたが外れ、そのまま浴槽に転落、首、肩を打った。医療機関は受診しなかったが、一週間ほど痛みが抜けなかった。	70代男性
4	マット・すのこ 自宅のお風呂場へドアを開けて入った際、敷いてあったマットが自分自身の重量でずれ後ろ側へ転倒した。左肘をついたので後頭部を打ち付けることなくカバーでき、左肘に血がにじむ程度で助かった。	70代男性
5	浴室用椅子 風呂場の椅子に座ろうとして腰をおろす際、端のほうに腰掛けてしまい、椅子が転倒して尻もちをついた。	70代男性
6	浴室用椅子 浴室で使用していた椅子の足についているゴム製の滑り止めが、経年劣化で外れてしまい、がたつきが出ていたが、そのまま使っていたら滑って尻もちをついた。	70代男性
7	染毛剤・カラーリング剤 カラーリングで頭皮がかぶれ、白髪が染められなくなった。	60代女性
8	浴室用ブーツ 風呂場を掃除しようとして、浴室用ブーツを履いた途端、ツルーン……。とっさに柱につかまったので、大事故にはならなかったが、それ以降は、柱を持ってブーツを履くようにした。	60代女性
9	便器・便座 トイレシャワーを使用した瞬間熱いなと思ったが、使用后しばらくしてヒリヒリして赤黒っぽくなり、直るまで時間がかかった。	60代女性
10	その他(浴室用洗剤) 風呂洗い用洗剤の文字が小さいのでシャンプーと間違えて頭にかけてしまい目に入った。めがねを外して風呂に入るのので小さな文字が読めなかった。	70代男性



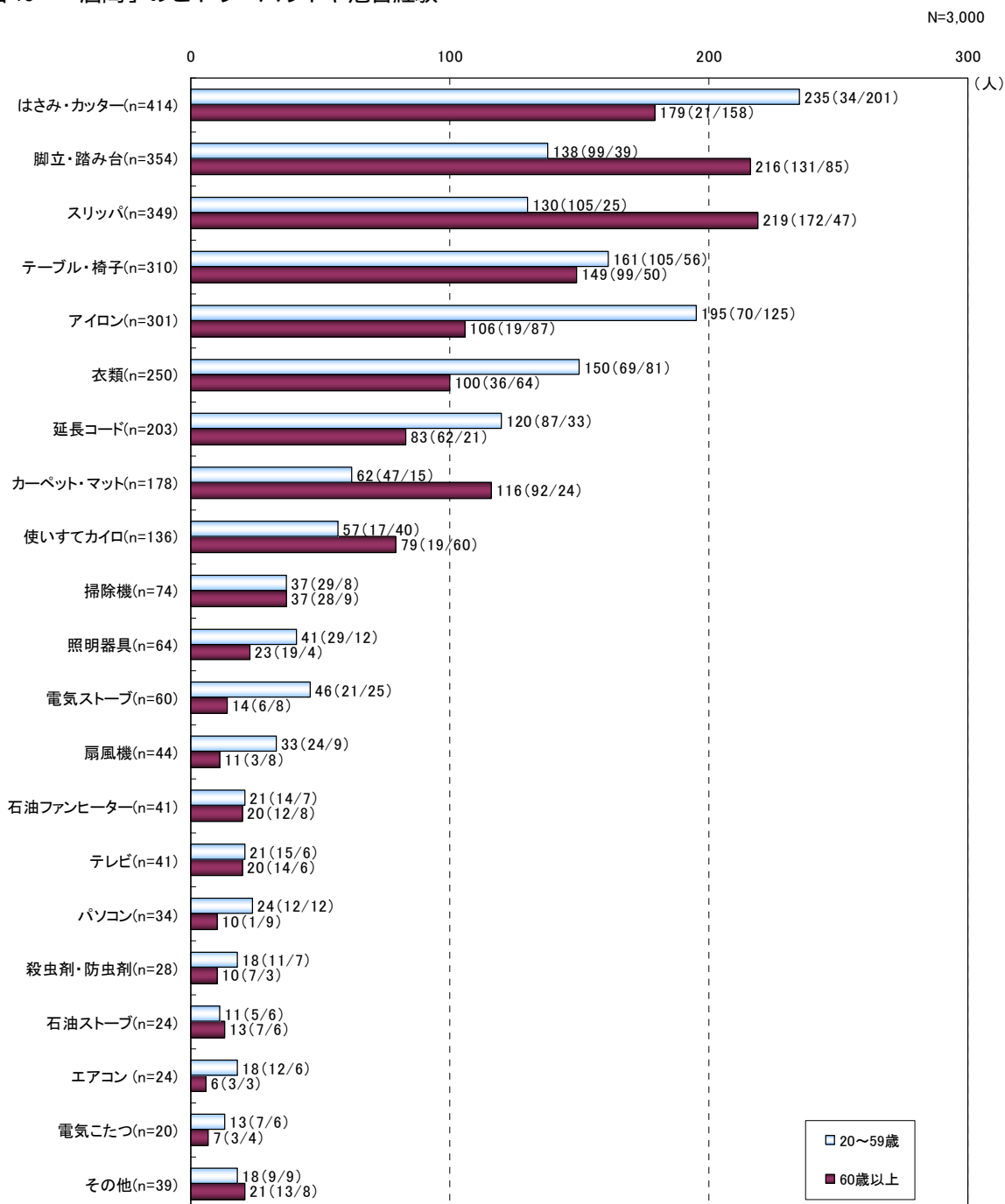
(4) 居間

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 19 は、主に「居間」で使用する製品について、20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったものは、「はさみ・カッター」_、「脚立・踏み台」_、「スリッパ」であり、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが多かったものは、「脚立・踏み台」_、「スリッパ」_、「カーペット・マット」_、「使いすてカイロ」_、「石油ストーブ」だった。また、「掃除機」は、20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者の数が同じだった。

「その他」としては、「新聞紙」_、「座布団」等があった。

図 19 「居間」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況及び具体的な内容

図 20～図 26 は、主に「居間」などで使用する製品でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったもの(180人以上)について、そのときの状況を 20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者と比較したものである。また、表 3 は、「居間」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況のうち、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが特に多かった事例は、「履いていたスリッパを自分で踏んで転倒した」だった。足が思うように動かないことや足のサイズとスリッパのサイズが合っていないことが原因と考えられる。事故を防止するには、自分の足に合ったルームシューズなどを使うようにするとよい。

他には、「椅子に手をついて立ち上がろうとした際に転倒」、「椅子に座り損ねて転倒」なども 60 歳以上の回答者が多かった。加齢に伴い足腰が弱くなったことが原因と思われる。立ち上がる時は、なるべく手すりを使用して不安定なものにはつかまらないようにする、椅子に座るときには、位置をよく確認するなどの慎重に動作することが必要である。

図 20 「はさみ・カッター」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

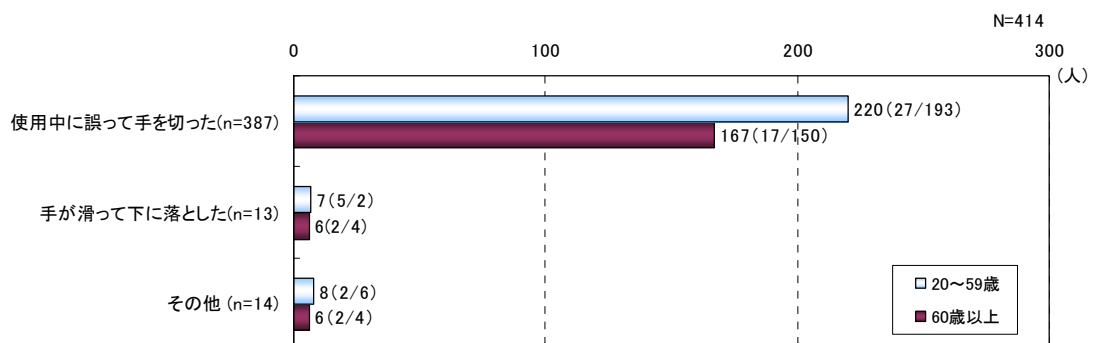


図 21 「脚立・踏み台」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

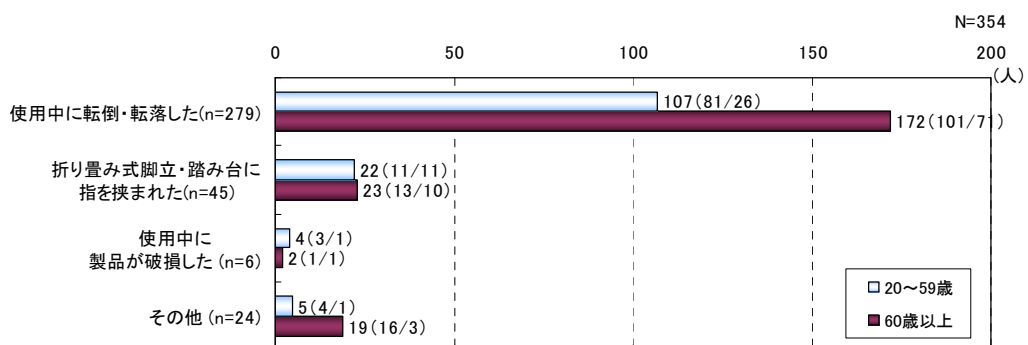


図 22 「スリッパ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

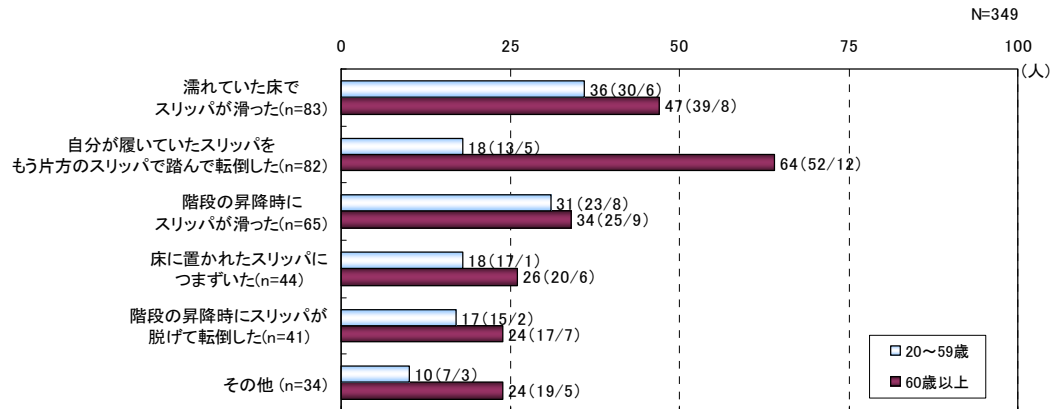


図 23 「テーブル・椅子」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

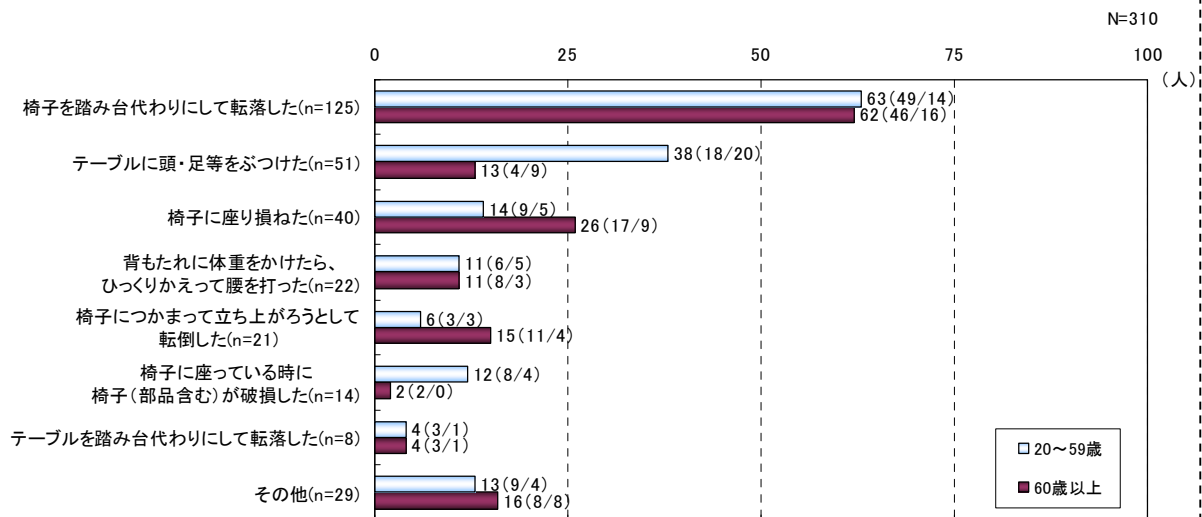


図 24 「アイロン」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

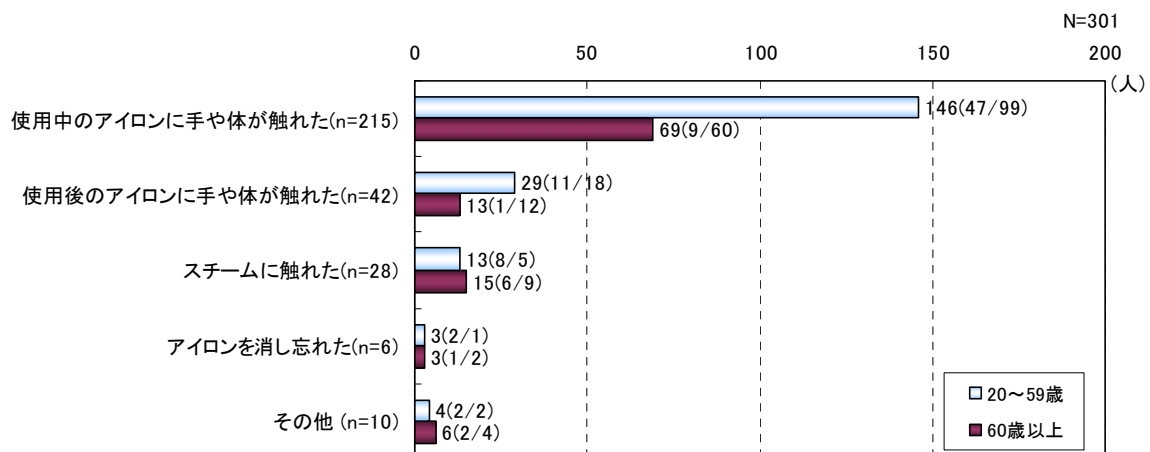


図 25 「衣類」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

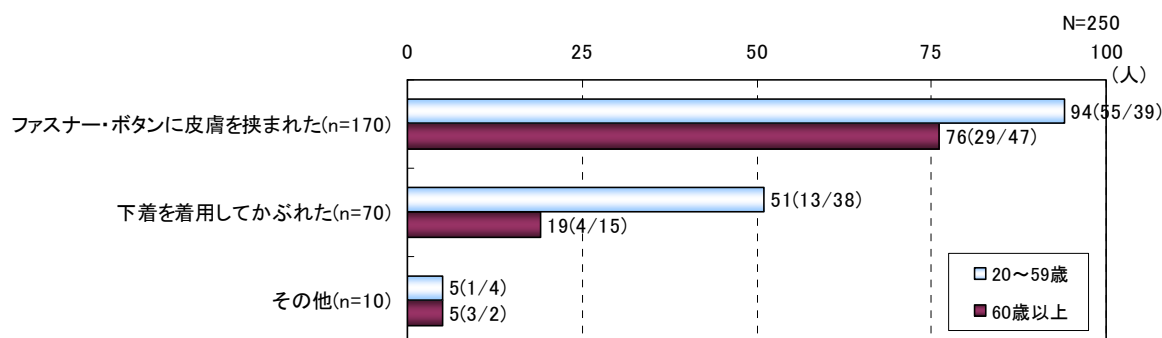


図 26 「延長コード」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

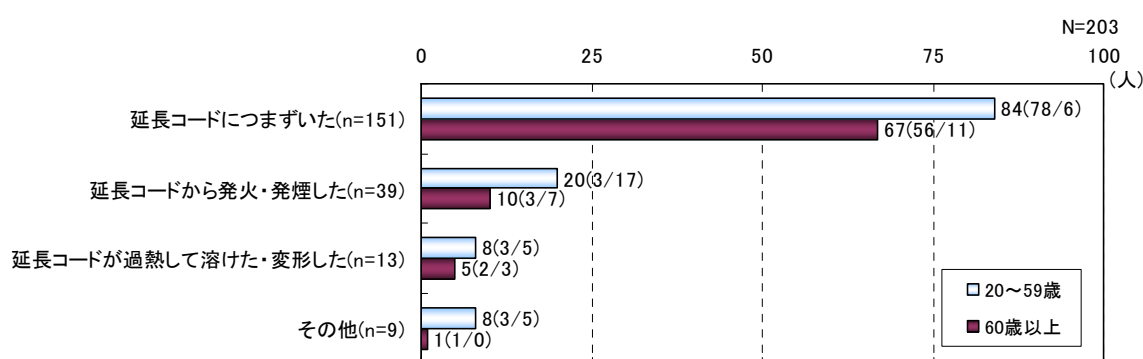


表 3 「居間」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者
1 脚立・踏み台	棚の上の物を取ろうとして踏み台から落下し、足首を骨折して入院した。	80代男性
2 スリッパ	スリッパを履いて階段を上がる時、スリッパ前部が引っかかり転倒した。その後、何度か同じように転倒しかけた。自分が思っているより足が上がっておらず、スリッパ分引っかかる感じ。その後スリッパを履くのをやめた。	70代男性
3 スリッパ	雨が降ってきたので急いで窓を閉めようとして、自分で自分のスリッパを踏んで転倒し、左腕を骨折した。	60代女性
4 スリッパ	冬場の靴下は厚いのでゆったりめのスリッパを履くようにしていた。春先になり、薄手の靴下を履いて階段を下りようとしたら、スリッパごと滑り落ちてお尻を強く打ち、青あざができた。	60代女性
5 テーブル・椅子	回転椅子に座り損ねて尾てい骨を強く打ち、かなり長く痛みが続いた。	70代女性
6 テーブル・椅子	テーブルに乗って出窓のサッシを閉めようとしたら、窓が硬くて、思いっきり閉めようとしたらその勢いでテーブルから転落し、肋骨を骨折した。	70代男性
7 カーペット・マット	じゅうたんの端がめくれてつまずいて転び、大腿骨を骨折して入院した。元々、骨粗しょう症であったため骨折したと思われる。じゅうたんは古いもので固くなっていた。	80代女性
8 カーペット・マット	階段を上ろうとした時に、下に敷いてあるカーペットがずれて、階段の段差に顔をぶつけた。かなり腫れたが冷やして治した。	70代男性
9 使いすてカイロ	寒い時期はいつも使いすてカイロを下着の上から腰に貼っているが、同じ場所に貼っているため温度に鈍感になったらしく、気が付いた時にはかなり大きな水ぶくれになっていて驚いた。	60代女性

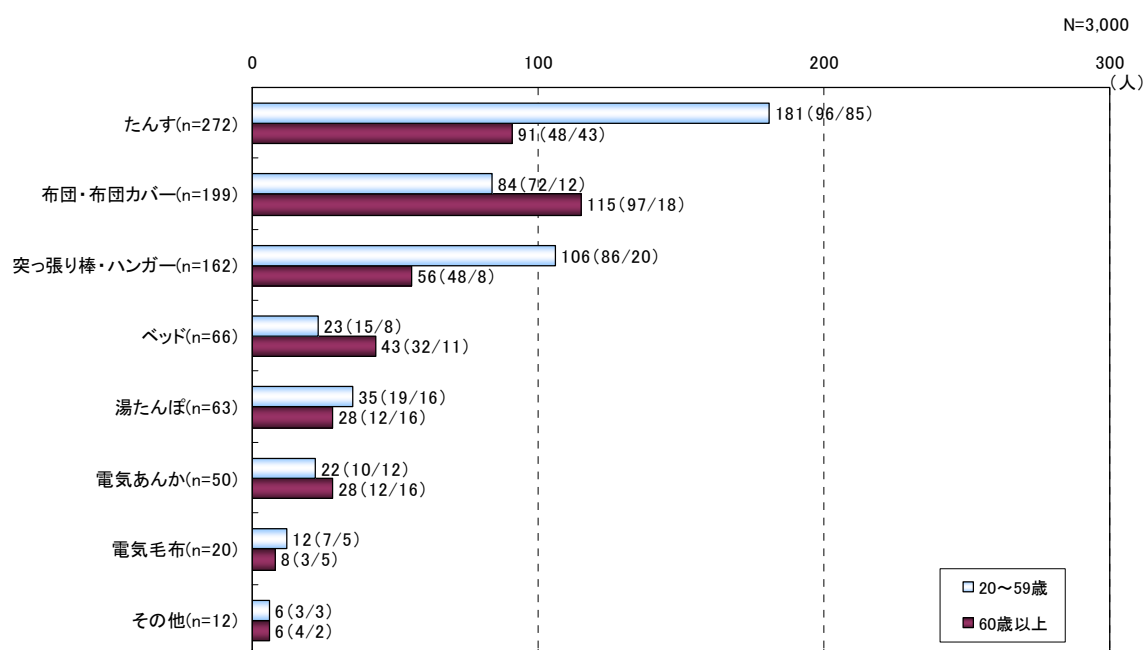
(5) 寝室

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 27 は、主に「寝室」で使用する製品について、20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったものは、「たんす」、「布団・布団カバー」、「突っ張り棒・ハンガー」だったが、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが多かったものは、「布団・布団カバー」、「ベッド」、「電気あんか」だった。

「その他」としては、「冷却マット」、「布団乾燥機」等があった。

図 27 「寝室」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況及び具体的な内容

図 28～図 29 は、主に「寝室」などで使用する製品でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったもの(180人以上)について、そのときの状況を 20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者と比較したものである。また、表 4 は、「寝室」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況のうち、20～59 歳と比較して 60 歳以上の回答者のほうが特に多かった事例は、「布団カバーにつまずいた」だった。布団まわりは足元に十分気を配り、転倒した場合でも周囲のものに衝突してケガをすることがないように、家具の配置を工夫したり、布団まわりを整理整頓しておくことが大切である。

図 28 「たんす」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

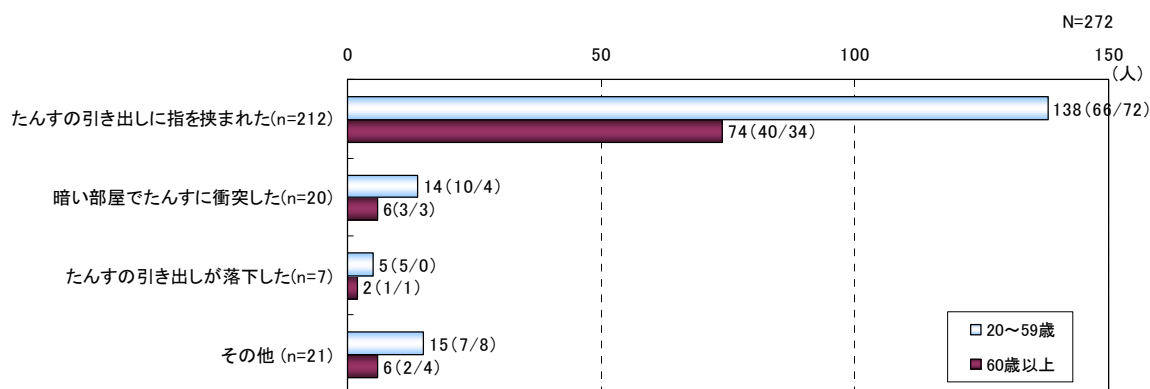


図 29 「布団・布団カバー」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

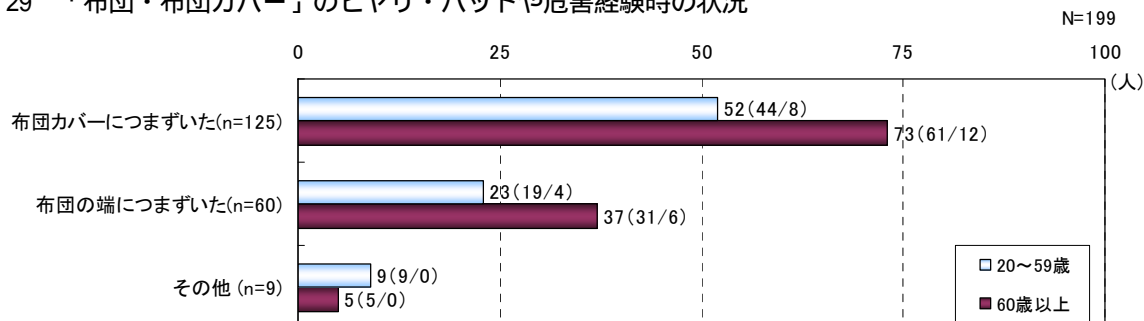


表 4 「寝室」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

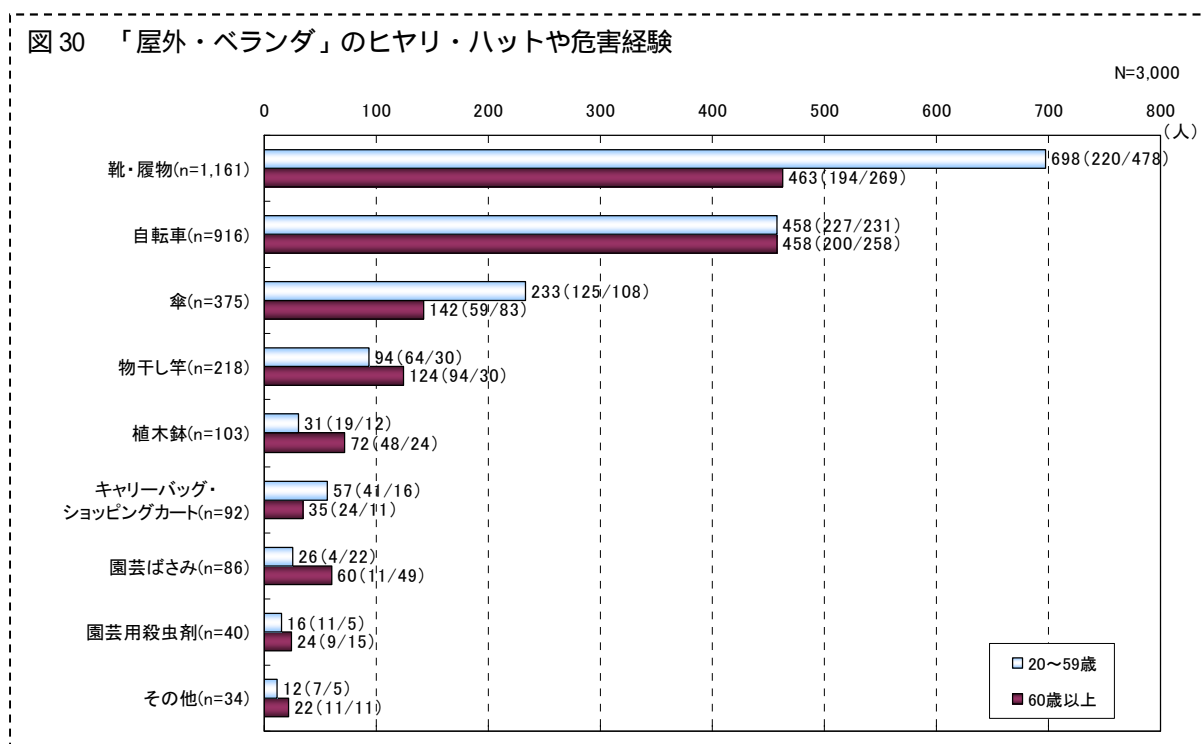
製品名	内容	回答者
たんす	たんすに薬指を挟んで骨折し、完治までに4週間かかった。	70代女性
	たんすの角に足の小指をぶつけて骨折した。治るまでに2～3ヶ月かかった。	60代女性
布団	敷布団の端で足が滑り転倒した時に、置いてあったアイロンケースで頭部を打撲した。	80代男性
ベッド	ベッドのマットの上で上がってエアコンを掃除していた時に、バランスを崩して転倒した。ケガはなかったが、ヘッドボードが壊れた。	60代男性
	ベッドから転落し、骨折した。	80代女性
湯たんぼ	湯たんぼの包み方が悪く、足首の上の所を低温やけどした。家にあった薬をつけたが回復が遅く、医療機関を受診した。	60代女性

(6) 屋外・ベランダ

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 30 は、主に「屋外・ベランダ」で使用する製品について、20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったものは、「靴・履物」、「自転車」、「傘」であり、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが多かったものは、「物干し竿」、「植木鉢」、「園芸ばさみ」、「園芸用殺虫剤」だった。また、「自転車」は、20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数が同じだった。

「その他」としては、「除草剤」、「洗濯ばさみ」等があった。



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な状況

図 31～図 34 は、主に「屋外・ベランダ」で使用する製品でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったもの(180 人以上)について、そのときの状況を 20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者とで比較したものである。また、表 5 は「屋外・ベランダ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況のうち、20～59 歳と比較して 60 歳以上の回答者のほうが特に多かった事例は、「床・路上で靴が滑り転倒した」、「つっかけサンダルを履いてつまずき転倒した」だった。靴は、足に合った滑りにくいものを選ぶようにすることが大切である。

また、「自転車」については、「道路の段差、縁石、障害物で転倒した」事例も多かった。自転車の事故は、骨折等の重大な事故につながる危険性も高いので、自転車で段差を通過する時は、降車して押し歩きをすることが必要である。

図31 「靴・履物」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

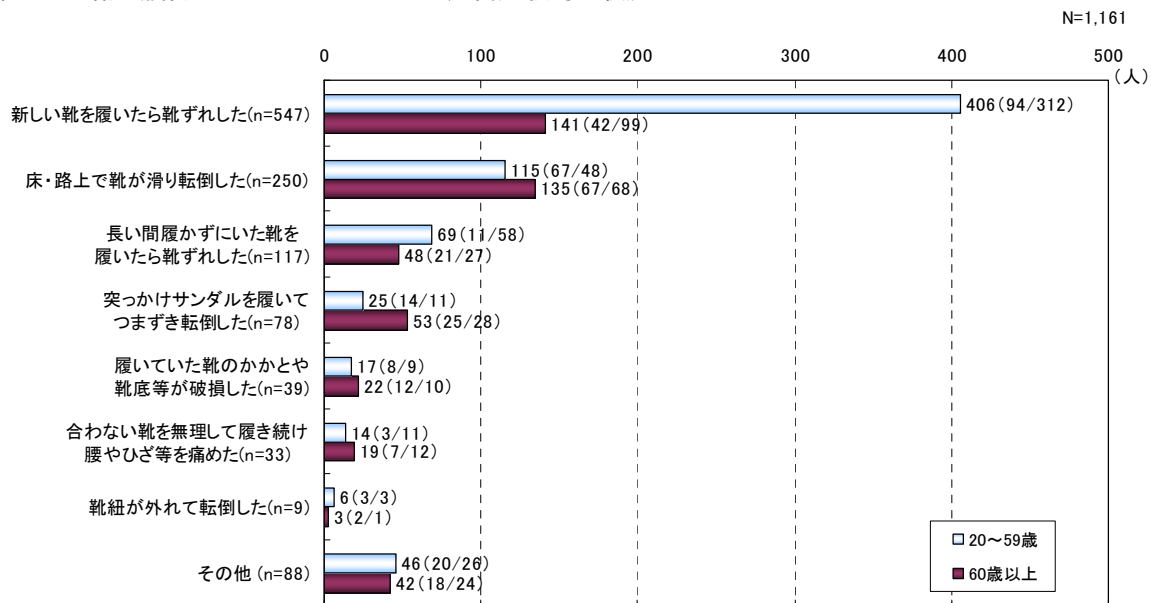


図32 「自転車」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

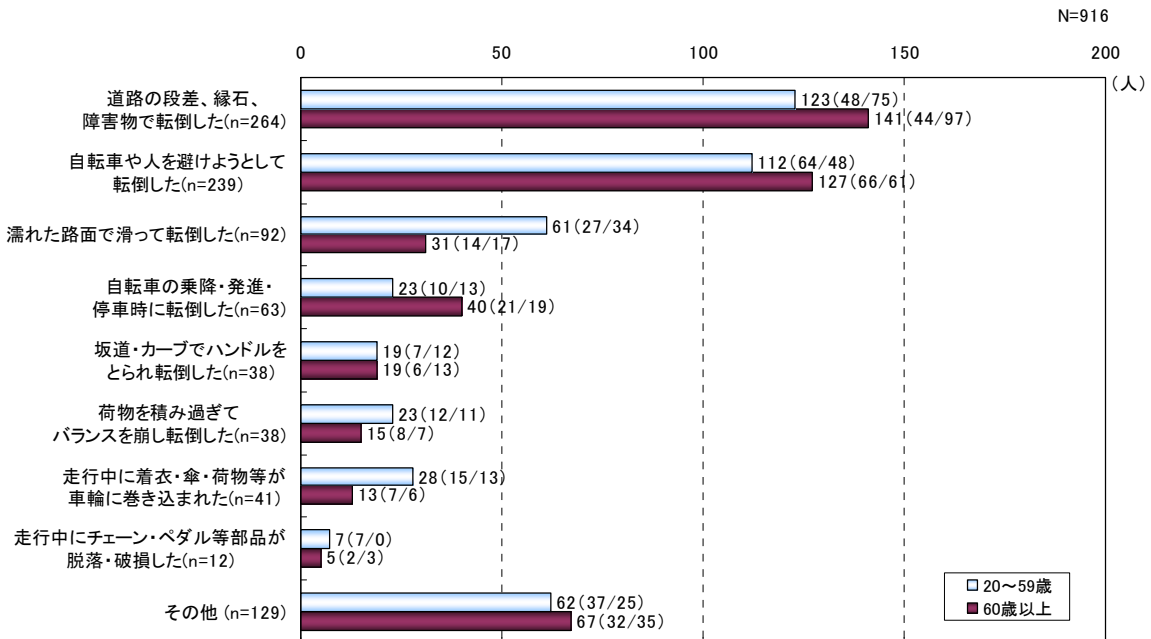


図33 「傘」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

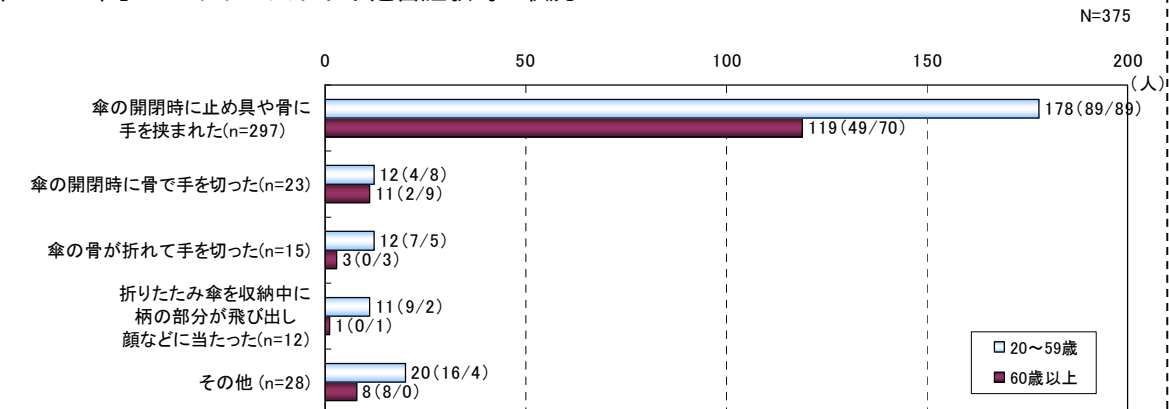


図 34 「物干し竿」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

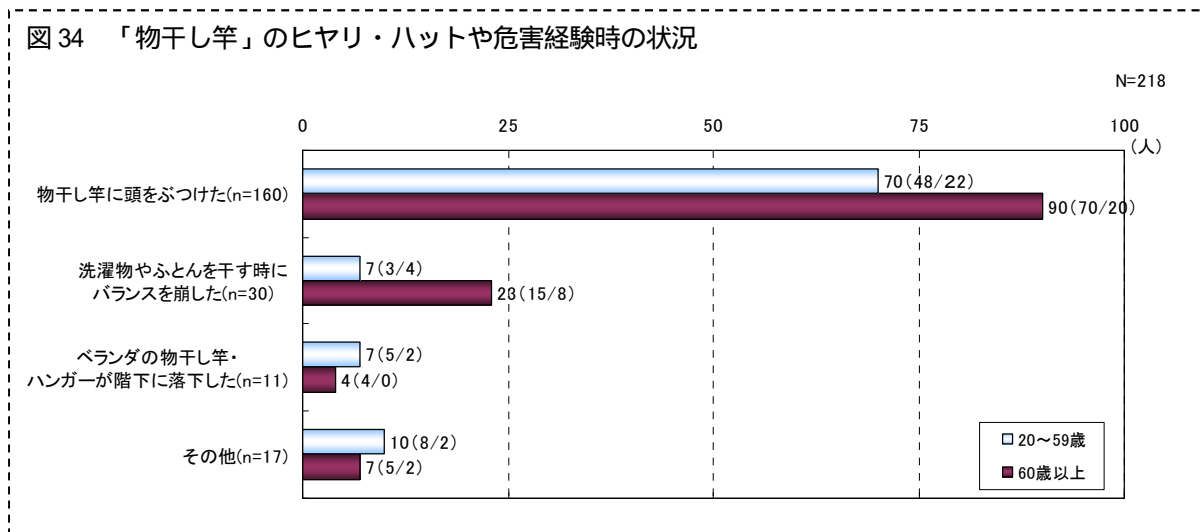


表 5 「屋外・ベランダ」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者
靴・履物	1 サンドルを履いていた時、マンションの床（掃除後で水が残っていた）で滑ってしまった。サンダルのかかと部分の底がすり減っていたことが要因と思い、買い換えた。	60代男性
	2 駅の階段を下りていた時、サンダルのかかところがずれて転び、3～4段転げ落ちて両膝を切り、医療機関を受診した。	70代女性
	3 居間から庭に出る時に、女物のサンダルを履いたら、サイズが小さかったため、足がもつれて転倒した。	60代男性
	4 ビルの廊下を歩いていた時、片方の靴がビニタイルの床に張り付いて前方に放り出されて転倒し、起き上がれずに通りかかった人に助けられ救急車で病院に運ばれた。右肩を脱臼した。床は濡れていなかったが湿っていた。	70代女性
自転車	5 自転車で買い物に行く途中、段差のある歩道に乗ろうとした時、ハンドルを取られて転倒し、ガードレールに胸をぶつけて肋骨にひびが入った。医療機関を受診して1か月コルセットを装着していた。	60代女性
	6 自転車で車道を走行中に激しい雨となり視界が悪くなった。前方に停車しているトラックが見えたので歩道を走ろうとした時に縁石でスリップして転倒、左膝下を骨折した。	60代男性
	7 自転車に乗ってこぎ出そうとした時、脚力が弱いため緩い傾斜にバランスを崩して転倒した。	60代女性
物干し竿	8 妻の身長に合わせて低めにしている物干し竿に布団を干している時、落とされた大きなクリップを拾おうとしてしゃがんで、急に立ち上がった際に頭を物干し竿にぶつけた。	60代男性
	9 物干し竿を自分の身長よりも高い所に上げる時、誤って竿が滑って、頭に当たった。	60代女性
	10 庭の物干し台に、布団を干す時に重みでよろけて転んだ。	80代女性
植木鉢	11 ベランダで植木鉢の整理をしている時に植木鉢につまずき、そばにあったビニール袋の取っ手に足を引っ掛け、捻挫した。	70代女性
園芸ばさみ	12 枝葉をたくさん左手に持っていたため、自分の手指に気付かず剪定鋏で切ってしまった。	60代男性

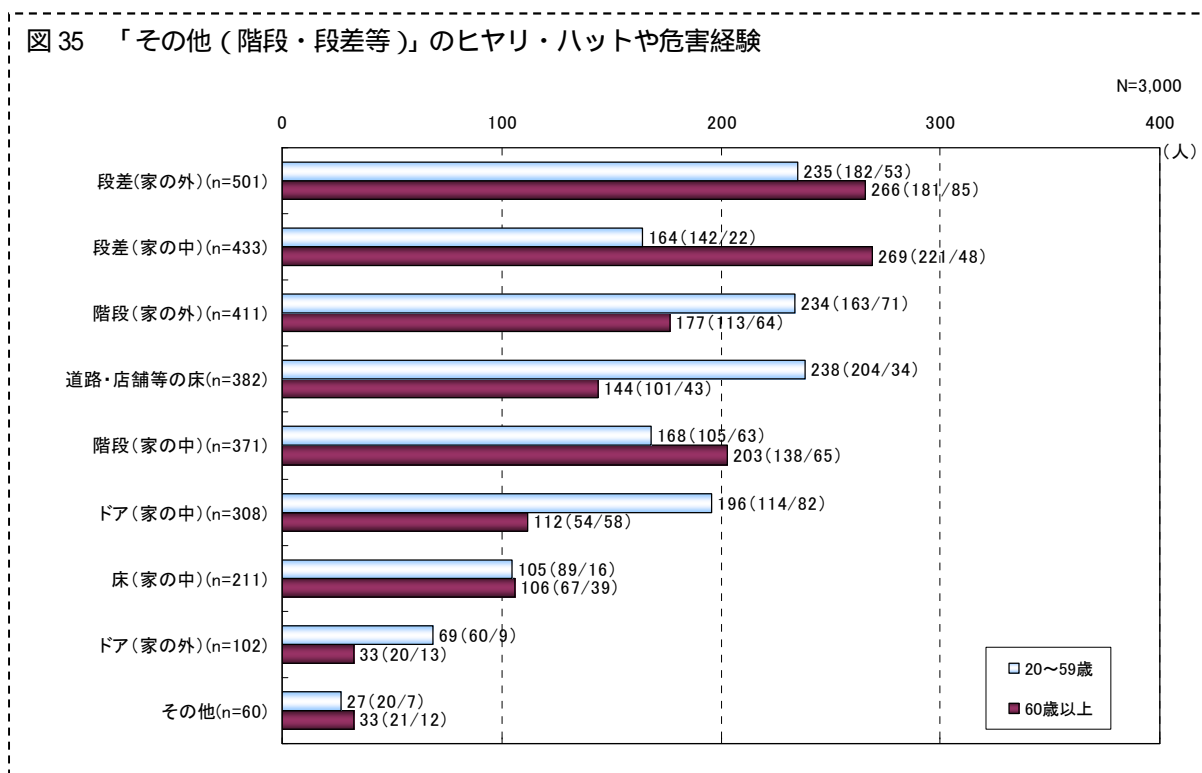
(7) その他（階段・段差等）

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 35 は、「その他（階段・段差等）」における 20～59 歳と 60 歳以上のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較したものである。回答者全体でヒヤリ・ハットや危害経験者が多かったものは、「段差（家の外）」、「段差（家の中）」、「階段（家の外）」であり、20～59 歳の回答者と比較して 60 歳以上の回答者のほうが多かったものは、「段差（家の外）」、「段差（家の中）」、「階段（家の中）」、「床（家の中）」だった。

「その他」としては、「エスカレーター」、「エレベーター」等があった。

図 35 「その他（階段・段差等）」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況及び具体的な内容

図 36～図 42 は、「その他（階段・段差等）」でヒヤリ・ハットや危害経験が多かったもの（180 人以上）について、そのときの状況を 20～59 歳と 60 歳以上とで比較したものである。また、表 6 は、「その他（階段・段差等）」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。

ヒヤリ・ハットや危害経験時の状況のうち、20～59 歳と比較して 60 歳以上の回答者のほうが特に多くなっている事例は、「部屋の入口や敷居、玄関の段差でつまずいた」、「階段の最後の段を踏み外し、転倒・転落した」だった。事故防止のためには、部屋の入口には、段差を解消するためミニスロープを設けるとよい。また、階段は、手すりを利用して一段一段確認しながら階段を上り下りするようにし、新築・改築する際には、足元の段差がきちんと見えるように人感センサー付きの足元灯を設けておくと安全性が高まる。

図 36 「段差（家の外）」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

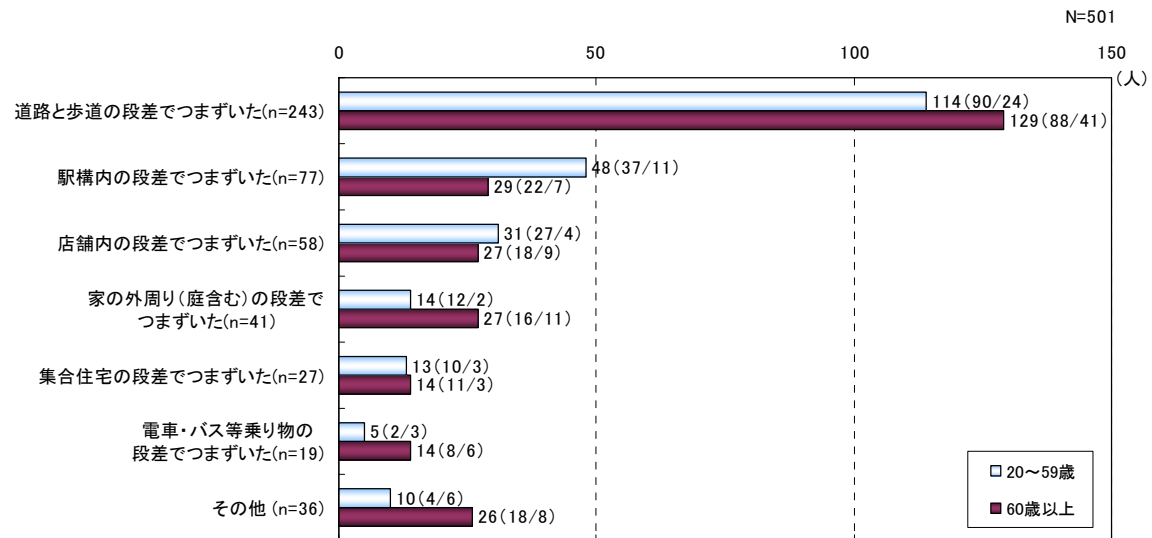


図 37 「段差（家の中）」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

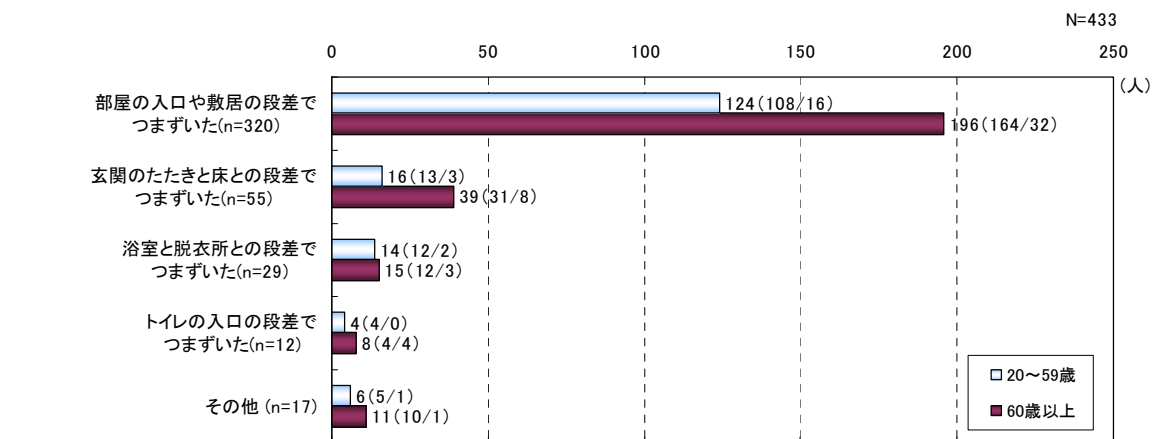


図 38 「階段（家の外）」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

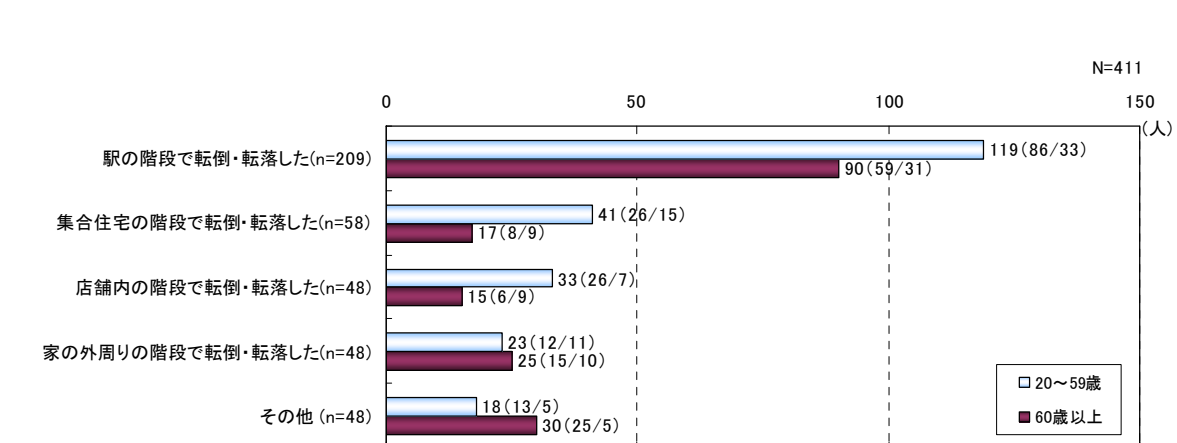


図 39 「道路・店舗等の床」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

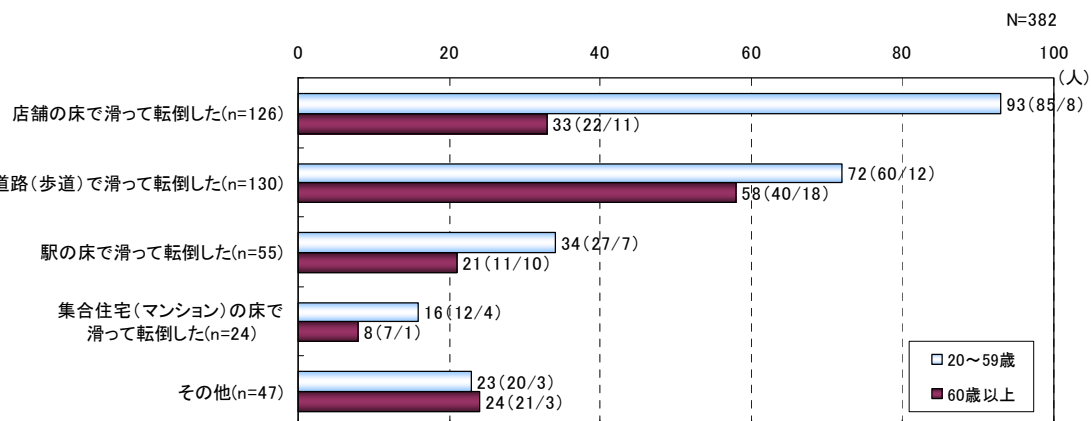


図 40 「階段(家の中)」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

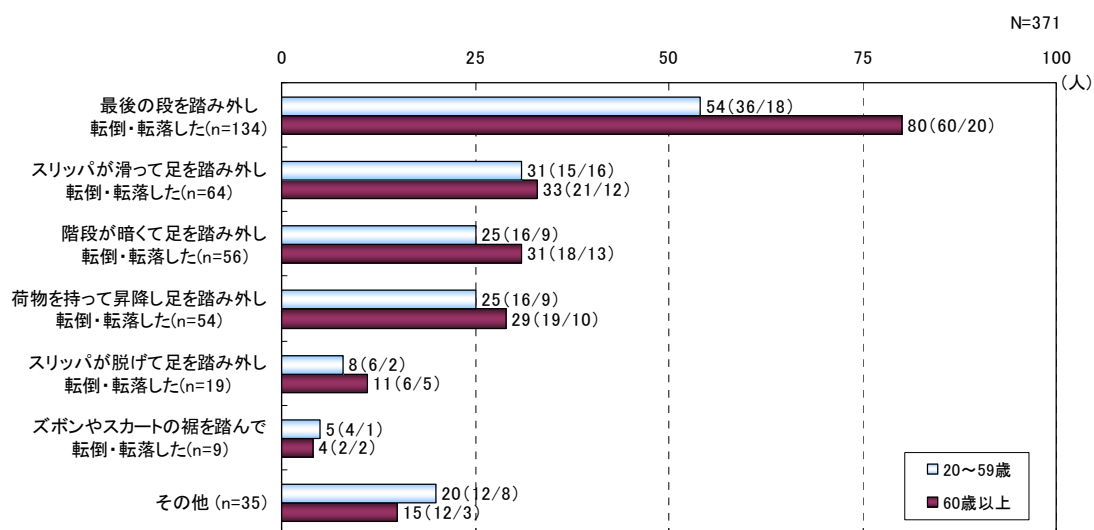


図 41 「ドア(家の中)」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

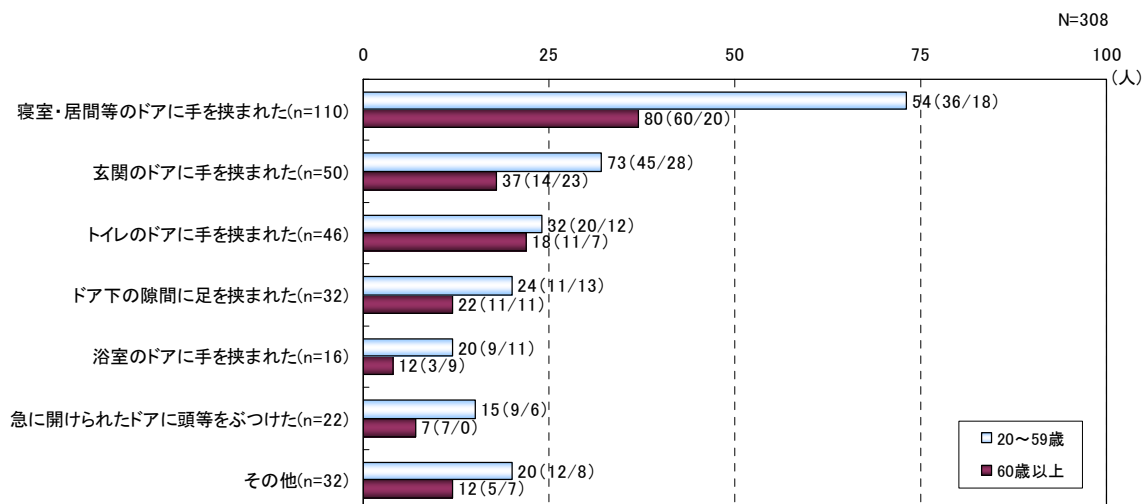


図 42 「床（家の中）」のヒヤリ・ハットや危害経験時の状況

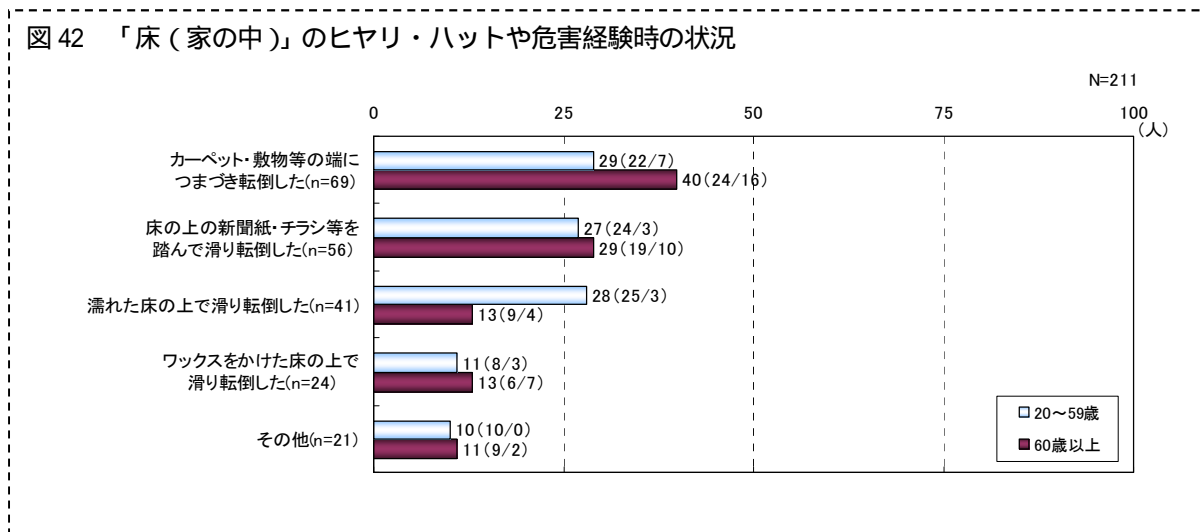


表 6 「その他(階段・段差等)」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	回答者	
1	段差 (家の外)	レンガ敷きの歩道上で1箇所だけレンガが突出しているところでつまずいて転び、15分くらい動けなかった。左半身打撲で左膝にダメージを受けて歩行が困難になり、救急車で運ばれた。	70代 女性
2		コンビニ前の段差に置かれている段差をなくすためのスロープが滑って転び、両膝を強打して3週間あざが取れなかった。	60代 女性
3	段差 (家の中)	リビングと廊下に8センチ程度の段差があり、足の上げ方が足りずにつまづき、つま先に血豆が出来た。	70代 男性
4		台所と居間のちょっとした段差につまずいて転倒、骨折して入院した。	80代 女性
5	階段 (家の外)	駅の階段の色と踊り場の色が似ていたので、下りる時、最後の段を見誤り、踏み外して転倒した。膝と腕を打撲し、すり傷を負った。	60代 男性
6	階段 (家の中)	階段の電球を徐々に明るくなる電球に変えたばかりの時、夜に明かりをつけて階段を下りたが、それ以前に比べ明るさが足りず、一番下の階段が見えなくて階段を踏み外し、捻挫した。	70代 女性
7		自宅の階段で、スリッパを滑らせ2、3段上から転倒した。医療機関を受診した結果、打撲だった。階段については、以前にも滑って転倒した経験があり、数年前に滑り止めも設置していたが、滑り止めにスリッパが固定され、そのスリッパに足を取られた形での転倒もあった。	70代 女性
8	床 (家の中)	リビングの床に新聞広告があり、それを踏んでしまい、滑って近くの椅子に腰をぶつけた。	60代 女性
9	その他 (エレベーター)	エレベーターの床に敷いてあるゴム板がめくられて足を入れてしまい、つまずいた。	60代 女性

4. 調査結果（長期間使用している製品）

60 歳以上の人を対象に実施したヒヤリ・ハット調査「シニア世代の身の回りの危険」（平成 22 年 12 月～平成 23 年 1 月実施）では、長期間使用した製品でケガをしそうになったり、ケガをした事例があった。そこで、どのような製品が長期間使用されているのか調査し、20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者で比較した。

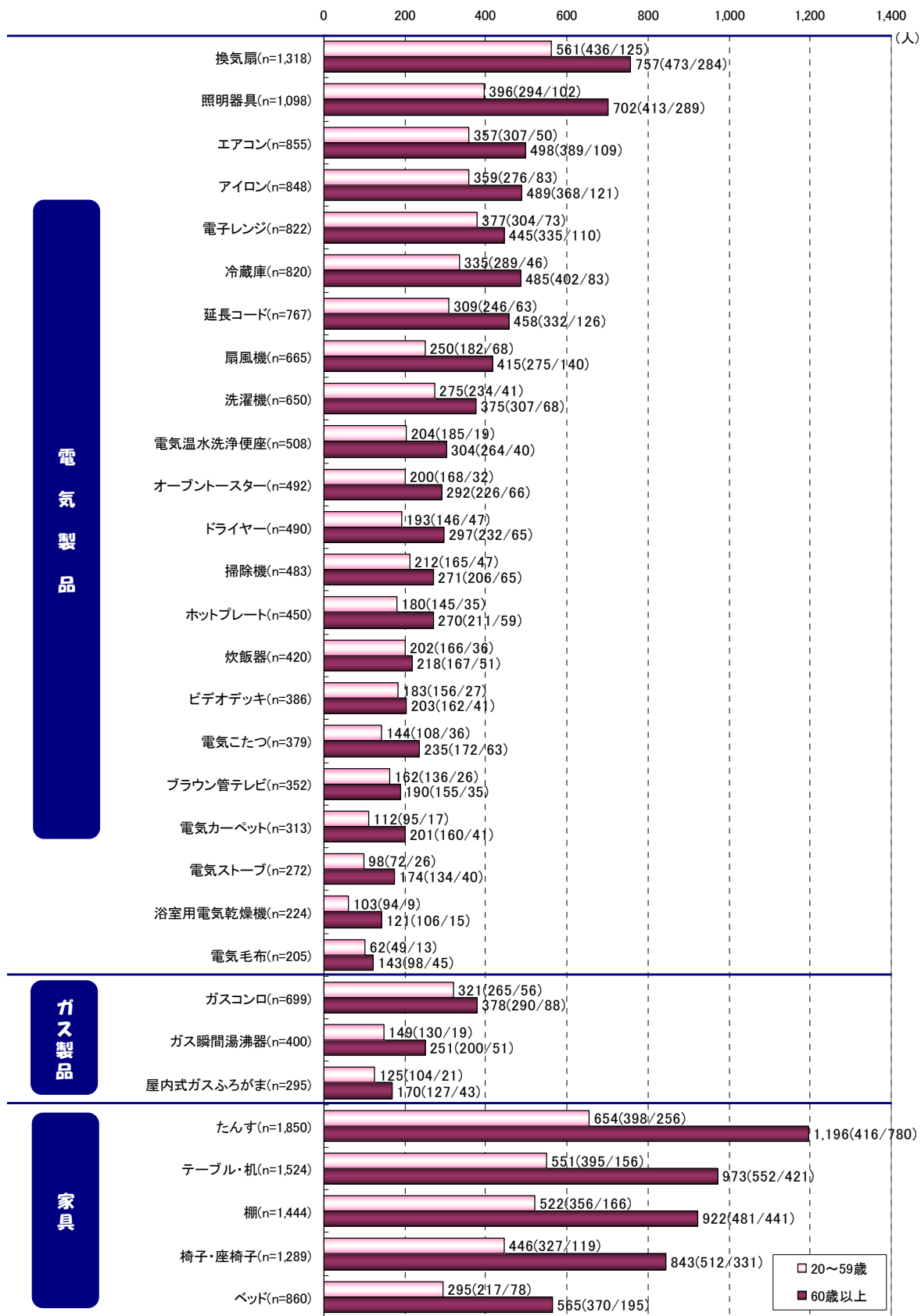
アンケート調査では、自宅で使用している電気製品、ガス製品、家具等について、その使用年数を聞いた。図 43 は、各製品の使用年数が「10 年以上」と回答した人の数が多い（200 人以上）製品を示したものである。この結果、「たんす」、「テーブル・机」等の家具や「換気扇」、「照明器具」等の住宅に備え付けて使用するものが長期間使用されていることがわかった。

また、全体として、60 歳以上の回答者のほうが 20～59 歳の回答者よりも製品を長期間使用している人が多かった。



図 43 長期間（10年以上）使用している製品

N=3,000



※グラフ上の「(○/○)」(○は数字)は、(10～20年使用している製品がある人の数/20年以上使用している製品がある人の数)を示す。

5. まとめ

シニア世代に多い事故を明らかにするため、製品別に 20～59 歳の回答者と 60 歳以上の回答者のヒヤリ・ハットや危害経験者の数を比較した。その結果、20～59 歳の回答者と比較して、60 歳以上の回答者のほうがヒヤリ・ハットや危害経験者が特に多かったのは、「段差（家中）」、「スリッパ」、「脚立・踏み台」等の転倒・転落に関する事例だった。また、医療機関の受診者を比較すると、20～59 歳の回答者よりも 60 歳以上の回答者ほうが医療機関を受診している人が多く、高齢になるとケガが重症化しやすいことがわかった。事故を防ぐためには、日常生活でこまめに体を動かして筋力やバランス能力を維持する、足元のつまずきやすいものや滑りやすいものを取り除き、整理整頓を行う等の心がけが大切である。

長期間使用している製品については、家具や換気扇、照明器具等が長期間使用されていることが多く、60 歳以上の回答者のほうが 20～59 歳の回答者と比較して、製品を長期間使用している人が多いことがわかった。

6. 結果の活用

- (1) 事故防止のポイントをまとめた「シニア世代の身の回りの事故防止ガイド」により、都民へ結果を情報提供し、事故の未然防止を図る。
- (2) 収集したヒヤリ・ハットや危害の事例を商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。
- (3) 事業者団体等へ調査結果を情報提供する。